

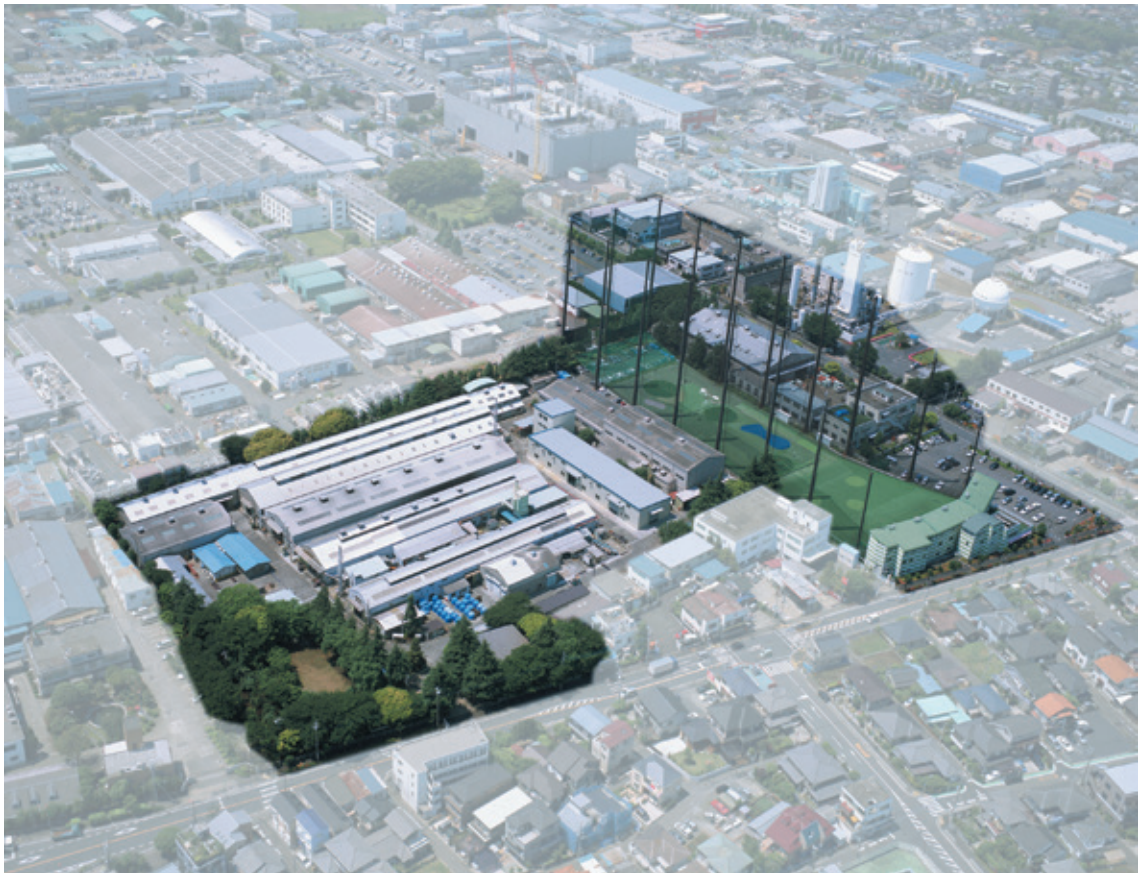
権田金属工業株式会社創立一〇〇周年記念誌

あゆみ

あ  
ゆ  
み

権田金属工業株式会社  
創立一〇〇周年記念誌





空から見た権田金属工業本社工場の全景  
(右上がゴルフ練習場ボールパーク)



## ごあいさつ

権田金属工業株式会社  
代表取締役社長

権田 源太郎

権田金属工業株式会社は、二〇一八年十月十日に創業百年を迎えることができました。

当社のはじまりは、三代目権田藤三郎が、従来やっていた銅鉄商から伸銅品メーカーとなることを志したことです。1918年(大正七年)十月に横浜で黄銅棒の生産を始めましたが、何分素人がやったことですので、中々うまくいかずに大変苦労したようです。生産が軌道に乗ってからも、横浜の工場は、関東大震災や大平洋戦争末期の横浜大空襲を含めて三度大きな被害を受けました。

このような幾多の困難にもかかわらず、これまで事業を続けることができましたのは、私どもをお引き立てくださいましたお取引先の皆様方の、物心両面に渡るあたたかいご援助のおかげであります。ここに改めて心より厚く御礼申し上げます。

また、当社の基礎を作った祖父である創業者と、父である二代目社長の事業に対する愛着、困難に負けない不屈の闘志と頑張り、そして今まで会社を支えてくださった諸先輩方にも、深く敬意を表し感謝する次第であります。

当社は本社工場を横浜より相模原に移転してから、早55年になります。その間伸銅メーカーとして努力を続ける傍ら、不動産事業等の多角化を計り、横浜市また相模原市においても、地域の皆様に役立つ事業を行い、権田グループとしての発展を考えてまいりました。

私どもが手掛けている伸銅品は、産業の基礎資材として広く様々な需要先で使われておりますが、昨今の社会や経済の変化は今までの予想を超えるものがあります。

その中で、私どもは当社を取り巻く環境の変化に柔軟かつ前向きに対応しながら、企業理念である「良品共栄」を実現できるよう、全従業員一丸となって精進いたします。不動産事業につきましても、より一層地域の皆様のお役に立てるよう努力を続けてまいります。

今後も皆様方の変わらぬご厚誼とご指導を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

# も く じ

|                                      |                          |    |
|--------------------------------------|--------------------------|----|
| ごあいさつ                                | 権田金属工業株式会社代表取締役社長 権田 源太郎 | 2  |
| 100周年百寿を祝う                           |                          | 7  |
| 仲銅業界への貢献とリーダーシップに感謝                  |                          |    |
| 一般社団法人日本仲銅協会会長 古河電気工業株式会社取締役会長 柴田 光義 |                          | 8  |
| 創業100周年を迎えられた秘訣                      | 白銅株式会社代表取締役 角田 浩司        | 10 |
| 権田金属工業株式会社 創業100周年記念誌祝辞              | 相模原商工会議所会頭 杉岡 芳樹         | 12 |
| 明治・大正・昭和・平成を生き抜いてきたあゆみ               |                          | 15 |
| 一夜明け前の地金商                            |                          | 16 |
| 初代権田藤三郎／二代目権田藤三郎／三代目権田藤三郎            |                          |    |
| 二横浜で伸銅所創業                            |                          | 20 |
| 三代目権田藤三郎が大正七年に創業                     |                          |    |
| 昭和十九年に法人化し(株)権田伸銅所初代社長に就任            |                          |    |
| 戦後の復興を機に権田金属工業(株)に改名／権田忠志が二代目社長に就任   |                          |    |
| 三横浜から相模原に移転                          |                          | 28 |
| 横浜駅西口の開発で移転先探す／相模原市の工場誘致             |                          |    |
| 第一期移転／第二期移転                          |                          |    |

|   |    |
|---|----|
| 四 業務多角化を推進……………   | 36 |
| 横浜工場跡地に第一権田ビル／第二権田ビル建設と東京営業所の開設<br>グループ企業   |    |
| 五 ささまざまな施策……………   | 43 |
| 設備更新で製造効率高める／三代目社長に権田源太郎就任<br>GK厚木マンシヨンの建築／JIS表示許可工場となる<br>バブル景気と難しい企業経営の時代                         |    |
| 六 新たな発展に向けて……………  | 54 |
| ゴルフ練習場ボールパーク開設／顧客満足度向上を目指した活動<br>リーマンショック以降の伸銅業／マグネシウムへの取組<br>隣地買収とGK厚木マンシヨンの売却／横浜第一ビル・第二ビルの建替えについて |    |
| 時を刻む・激動の一世紀 年表……………   | 69 |
| 100年の思い出……………   | 81 |
| 100周年を迎えて……………  | 82 |
| 権田金属工業株式会社専務取締役 権田 善夫……………  |    |
| 100周年を迎えて……………  | 83 |
| 権田金属工業株式会社取締役総務部長 山本 周平……………  |    |
| 次の百年に繋ぐ良き伝統……………  | 85 |
| 権田金属工業株式会社監査役 権田 哲也……………  |    |
| 子孫に伝えるもの〔80周年記念誌より〕……………  | 86 |
| 権田金属工業株式会社初代社長 権田 藤三郎……………  |    |
| 大切な、独自の社風〔70周年記念誌より〕……………   | 89 |
| 権田金属工業株式会社二代目社長 権田 忠志……………  |    |
| 六十年余の交遊〔80周年記念誌より〕……………   | 90 |
| 下田産業株式会社代表取締役 下田 省吾……………  |    |



反射炉製錬について〔80周年記念誌より〕

元取締役相談役 徳武 雅英……………91

オイルショックの前後〔80周年記念誌より〕

権田総業株式会社顧問 横山 康吉……………93

独立独歩の誇り〔80周年記念誌より〕

監査役 小川 重春……………94

八十周年に思う〔80周年記念誌より〕

取締役総務部長 寺岡 勲……………96

権田金属工業の今と明日……………97

今後の展望

権田金属工業株式会社代表取締役社長 権田 源太郎……………98

サービス(S)、スピード(S)、テクノロジー(T)を理念に……………100

題字 権田 源太郎

100周年百寿を祝う



## 伸銅業界への貢献と リーダーシップに感謝

一般社団法人日本伸銅協会 会長  
古河電気工業株式会社 取締役会長

柴田 光義

権田金属工業株式会社殿が創業100周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

日本には約300万社の会社がありますが、創業100年を超える会社はたった3万社、わずか1%であります。国家天下を語るとき、100年の計という言葉がありますが、これは大きなことを成し遂げるには、目先にとらわれず大きな視点で見ること、そして特に人材が肝要であるということです。まさに100年の計で歴代の経営者が、バランス感覚に優れた舵取りを行い、技術開発に注力し、そして有能・活力あふれる社員を育成することで、今日のご繁栄を築き上げ創業100周年を迎えられたことに心より敬意を表したいと思います。

日本伸銅協会は今年で創立70周年になりました。設立以来、理事として協会活動を通じて伸銅業の発展に貢献して頂き、さらにリーダーとして業界を牽引してこられたことに深く感謝申し上げます。

近年は加工品の製造にも注力され、熱間鍛造銅リングは、新幹線などの鉄道用モーターや産業用モーターに幅広く使用され、国内トップシェアを有しているとお聞きしています。またマグネシウム合金板の商品化にも積極的に取り組まれ、2015年には国際マグネシウム協会の優秀賞も受賞されたとのことで、技術開発力の高さを伺うことができます。

世の中は大きな変化点に差し掛かっています。人類の寿命も100年を超える時代になります。技術的には自動運転、電動化、IoT、AI、エネルギーなどの大きな変化があります。その中で、導電性に優れる銅は、今後も社会インフラそして変革を支える素材として期待され、貴社の活躍の場は益々広がっていきます。

優れた経営者のもと、社員の方が一丸となって、次の100年の計をもって世の中の変革に貢献して頂き、会社として更なる発展・飛躍されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 創業100周年を迎えられた秘訣

白銅株式会社 代表取締役  
角田 浩司

権田金属工業株式会社が創業100周年を迎えられましたこと、今まで権田金属工業様を支えてこられた創業者、歴代経営者の方々、既に引退された従業員の方々や現役の従業員の方々など関係する方々に心からお慶びを申し上げると共に敬意を表したいと思います。

英国の博物学者で、進化論の確立者であるダーウインの名言のひとつに「生き残る種とは最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。」というものがあります。生物の世界では強くなるとも、知的でなくとも、変化に対応できれば生き残れるかもしれませんが、企業の世界では強く、知的で、そして変化に対応できなければ100年という長くの間存続していくことは不可能だと思えます。権田金属工業様は、強くもあり、知的でもあり、変化にも良く対応してきたのだなと伺えます。

権田金属工業様は、ただ量を追いかけるのではなく、常に顧客の視線に立ち、品質や納期など顧客の様々な要望に対して技術力や財務力などを駆使して常に速やかに対応し、

顧客の期待に応えるだけでなく顧客の期待を上回る変化をしてこられました。

この100年の間に起こった関東大震災による本社の倒壊、第二次世界大戦時の横浜大空襲による被災、オイルショック、リーマンショック、東日本大震災などの大きな出来事乗り越えて今日をこうして隆々と迎えられたことは、権田金属工業様が如何に強く、知的で変化に対応してこられた証と言って良いと思います。そして何故数多の企業がある中で権田金属工業様がこのように強く、知的で、変化に対応できたかを考えると、吉田松陰の名言に思い当たりました。その名言は、「一日一字を記さば一年にして三百六十字を得、一夜一時を怠らば百歳の間三万六千時を失う。」であります。権田金属工業様の創業者から過去の経営者の方々そして現社長である権田源太郎様においても、一日一字を得、一夜一時を怠らず経営に、顧客満足にそして従業員満足に真摯に向かい合っただけの結果なのだと拝察致します。

私ども白銅株式会社も本年度創立87年を迎えます。我々も権田金属工業様のように100周年を迎えることができるよう、これからも背中を追いかけてまいります。権田金属工業様には100周年を新たな門出として200周年に向け更なる発展を祈念すると共に、これからも業界を牽引していただくことをお願いしお祝いの言葉とさせていただきます。



# 権田金属工業株式会社 創業100周年記念誌祝辞

相模原商工会議所会頭

杉岡 芳樹

権田金属工業株式会社が創業100周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴社は、大正7年に権田伸銅所を創業後、昭和35年に相模原市への溶解・圧延工場を移転され、3年後には本社及び製品工場を移設されました。

この100年の間には、幾多の景気変動を経験された中で、時代のニーズを的確にとらえ研究開発等を着実に実践され、また、地域企業とともに今日の繁栄を築かれたのは、歴代社長をはじめ、役員、社員の皆様方の並々ならぬ熱意と団結力の賜物であります。

このことは、市内工業の発展をけん引するとともに、他の模範となり市内を代表する企業として本市の発展にも多大に貢献されるなど心から敬意を表する次第でございます。

今後につきましては、一世紀に亘り培われた豊富な経験や幅広い分野で構築された人

的等ネットワークを将来につなげるとともに、ロボット、AI、IoT等先端技術や大学、研究機関との共同研究など、ものづくり産業の更なるけん引役としての取り組みをご期待申し上げます。

当商工会議所といたしましては、ものづくり産業のこれまで以上の発展はもとより、相模原市とより連携を図りながら、本市のポテンシャルを活かしたまちづくりや圏央道、リニア中央新幹線の開通、小田急多摩線延伸など広域交通ネットワークの整備などにより多様な企業立地も見込まれることから新しい時代を見据えた産業の推進にも尽力してまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この100年の輝かしい歩みを礎に、権田金属工業株式会社のますますご繁栄、そして皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。





明治・大正・昭和・平成  
を生き抜いてきたあゆみ

# 一 夜明け前の地金商

## 初代権田藤三郎

1843年（天保18年）初代権田藤三郎は新潟県三島郡興板村の呉服商の星野家四男として生まれ、啓助といつた。その啓助が故あって母ミイの弟で同郡脇野町に本陣を営む権田惣兵衛の養子となり、江戸に出て商業を見習った。この後、横浜開港を機に横浜の相生町二丁目で高橋助次郎が営む銅鉄商三河屋に身を寄せ、その業に励んだ。

爾来数年を経た1874年（明治七年）、権田啓助は主人の許しを得て横浜の石川町二丁目四十三番地で銅鉄商を開業、これを機に藤三郎と改名、屋号を三河屋とした。ここに初代権田藤三郎が誕生したのである。

江戸に出て商業を学ぶ  
商いに必須のそろばん

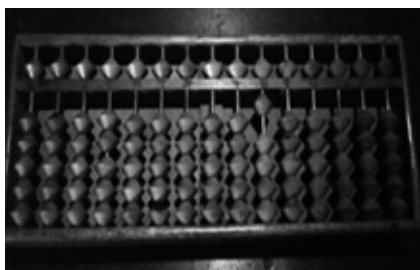
その翌年の1875年（明治八年）、藤三郎は神奈川県足柄下郡根府川村名石根川石同石山持主の皆本源兵衛の娘茂登を妻に迎えるが、この茂登は男子をも凌ぐ剛健な気性で内助の功につとめ、石川町二丁目八番地の売家を夫に勧めて買収し移転した。それが1876年（明治九年）のことで、家運は順風満帆に向かっていた。



権田藤三郎の誕生  
当時の呉服店の様子(参考資料)



権田惣兵衛の養子となる  
史跡・旧有壁宿本陣(写真提供:宮城県教育委員会)





明治中頃の横浜大棧橋(長崎大学附属図書館所蔵)

## 二代目権田藤三郎

初代権田藤三郎と妻茂登には子どもがいなかった。このため、茂登の姉(源兵衛の長女)皆本カルと婿に迎え入れた熊吉夫婦の間に生まれた二男源太郎(茂登の甥にあたる)を養子に迎えた。

その源太郎は妻に横浜市太田町で紙商を営む石井興一の妹タケを迎え、稼業を手伝ったが、1899年(明治三十二年)十二月七日、初代藤三郎がこの世を去った。享年五十六歳だった。

そこで源太郎はその名を藤三郎と改め、二代目を継いだ。天性ゆえか二代目権田藤三郎は商才に長けていたこともあって業績はさらに上昇、権田家の基盤を確かなものにした。

ところが、運命のいたずらか、この二代目は働き盛りの三十一歳の時、惜しくも他界した。1902年(明治三十五年)三月十三日のことである。このため妻タケは合議のうえで生家に復籍した。

### 三代目権田藤三郎

二代目権田藤三郎夫婦にも子どもがいなかった。このため母の茂登は二代目の実弟にあたる皆本熊吉・カルの四男善四郎を養子に迎えた。

その善四郎は1909年（明治四十二年）三月、神奈川県平塚在豊田村で製絲業を営む富田次郎の二女久子と結婚するが、久子は病魔に犯され翌年の1910年（大正四十二年）十二月五日、二十三歳の若さでこの世を去った。

そこで善四郎は1912年（大正元年）、横浜市西区西戸部町の会社員松丸富次郎の姉モトと再婚したが、1916年（大正五年）五月二十九日、母茂登が六十三歳で他界するに至ったのを機に翌1917年（大正六年）一月二十四日、その名を三代目藤三郎と改めた。

その三代目藤三郎はその翌1918年（大正七年）に考えるところがあつて三十歳そこそこで工業への転進をはかり、横浜市神奈川区青木町（その後西区南幸町二丁目五十一番地に改正）に伸銅工場を建設、同年十月に黄銅棒や線類の製造販売を始めた。当時の黄銅棒製造サイズは太物38・1mm、細物6mmだった。

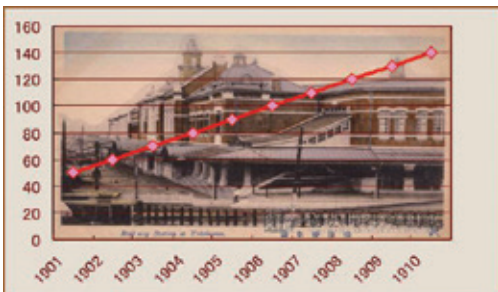
権田金属工業（株）の一〇〇年の歴史はその夜明け前にあたる初代から三代目藤三郎に至る地金商としての四十四



権田家3代目 権田藤三郎



明治中頃の横浜馬車道(横浜開港資料館所蔵)



地金商として発展

年間の歩みを貴重な足がかりに始まったのである。

この夜明けの歴史について四代目権田忠志(権田金属工業(株) 二代目社長)は母親から聞いた話として、「横浜地区は貿易基地であり、京浜地区には需要、販売業者が多いこともあって、盗品および故買(盗んだ品物と承知しながら買うこと)が多かった。それに当時は官憲の強かった時代で、警察が犯人を捕まえると売った先を追求、そのために故買で戸部警察署に一日留置されることが度々あったようだ。何も知らずに罪で疑われ、辛い思いをする、そんなことから脱却しもっと社会に貢献しようと考え三代目藤三郎は伸銅所経営に思い至ったようだと述懐している。

## 二 横浜で伸銅所創業

### 三代目権田藤三郎が大正七年に創業

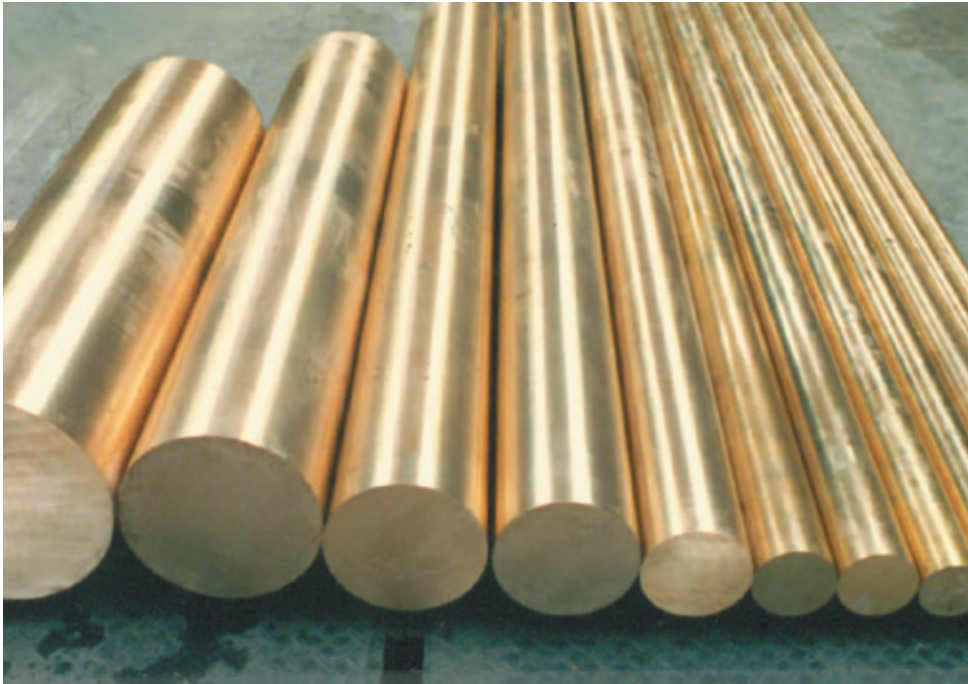
大正末期から昭和の初めにかけては関東大震災や世界恐慌と天災、人災が吹き荒れた時代で、三代目藤三郎自身も病いに倒れたりして、伸銅所創業は嵐の海原に船出したようなものだった。

1918年（大正七年）に開業して間もなく藤三郎はその荒波にもまれ心身とも疲労困憊した。時代は不況のまっただ中で経営収支が合わなかったため、1920年（大正九年）一月二十日には遂に病床に伏す身となり、二月には工場閉鎖の止むなきに至った。

翌1921年（大正十年）三月には健康も回復したので再起、製品改良や経費節減などの陣頭指揮にあたったことで、経営も上向き始めた。その矢先の1922年（大正十一年）八月二十四日、今度は大旋風の被害にあい工場建設すべてが倒壊し機械設備に多大な損害をこうむった。

しかし、藤三郎はこれにも屈せず再建に努めた結果、同年十二月には復旧させ、その努力に報いるように市場も回復し、業績が上がった。これにより経営も安定すると思いきや、今度は1923年（大正十二年）九月一日の関東大震災にあい、本店工場とも廃墟と化してしまった。

この時、藤三郎の手元に資金はなく、数十万円にのぼる



現在の黄銅棒



海軍省の指定工場となる  
当時の海軍省の外観



関東大震災で全壊したチャータード銀行  
(横浜開港資料館所蔵)

負債を抱える事態になったため、「再起は絶望」と沈み込むひと時もあったが、「徒らに悲観に陥るは愚なり」と再び一念発起、債務者および取引先に実情を告げながら協力を要請した。その結果、逆に励まされる形になり、改めて再々建に邁進することを決意した。

しかしながら、無情にも藤三郎の身边では不幸なことが相次いだ。三代目もまた子どもがいなかったため1924年（大正十三年）一月、権田家本家の血筋を引く権田清一が当時、横浜市相生町二丁目で銅鉄商を営んでいたの  
でその二男善雄を養子に迎えたが、同年八月七日に死去。  
1928年（昭和三年）には権田清一の長女清子を養女に  
迎えたが、1939年（昭和十四年）五月十六日に病で死  
去したのである。

一難去れば一難来るそんな中で藤三郎は自らを鞭打ちながら奮闘、1925年（大正十四年）三月には工場を復旧させ、これを機に本店を廃し工場経営一本に励み、債務返済に専念した。その結果、1930年（昭和五年）には債務を完済した。

以後、特殊合金の研究を進め軍規格品を製造するようになったことから、軍関係工場を取引先に圧延金属材料の販売を伸ばし、従来に倍増する生産体制を整えた。さらに1937年（昭和十二年）、支那事変の勃発を機に1938





1938年(昭和13年)10月 権田伸銅所創立20周年 磯子階楽園にて  
後列右から5人目が権田藤三郎社長、その左がモト夫人

年(昭和十三年)七月には海軍省指定工場の名譽を受けるに至った。

三代目藤三郎は何度となく帆を倒されながらも荒波を乗り越え、辿り着くべき陸地を見つけたのである。

### 昭和十九年に法人化し

#### 株式会社権田伸銅所初代社長に就任

1938年(昭和十三年)に海軍省指定工場になるや権田藤三郎は生来の研究心を發揮、高力黄銅棒、マンガン青銅棒、アルミニウム青銅棒、ニッケル青銅棒、ネーバル黄銅棒などの製造に精力を注いだ。

1941年(昭和十六年)十二月八日、帝国海軍によるハワイの米国艦隊奇襲を機に始まった太平洋戦争で権田伸銅所はさらに軍需省管理工場になり、これをバネに権田藤三郎はそれまで個人経営だった会社の法人化を計画、1944年(昭和十九年)十一月九日、株式会社権田伸銅所(資本金七十五万円)を設立するに至り、初代社長に就任した。

しかし、翌1945年(昭和二十年)五月二十九日、会社工場は米軍による空襲にあつて損壊、その復興に努めていた八月十五日に日本は降伏、終戦となった。



1945年(昭和20年)5月  
米軍の横浜大空襲



1941年(昭和16年)当時の横浜本社事務所 ↑  
当時の権田藤三郎

創業以来、1922年(大正十一年)の大旋風、1923年(大正十二年)の関東大震災そして1945年(昭和二十年)の空襲と三度も被災にあった権田藤三郎は終戦時に満六十歳になり、実子がないこともあって生まれ故郷の根府川に帰り、ミカン栽培をしながら老後の生涯を送ろうと弱気になっていた。

ところが、得意先から工場再開を励まされ、改めて企業の存続を決意した。

### 戦後の復興を機に権田金属工業株式会社に改名

空襲と敗戦から立ち直ることを決意した権田藤三郎は同時に平和産業への転換をも心に決め、1947年(昭和二十二年)一月に社名を権田金属工業株式会社に変えると共に復興第一期予算として五百万円を計上し、それまで借地だった工場の土地三千三百坪を買収、機械、電気の新設も更新し、1947年(昭和二十二年)九月に操業を再開した。

権田藤三郎は一方で自らの後継者についても考えるところがあり、それまで二人の養子を迎えながら間もなく死去したので、権田清一から三番目の養子として次女信子を迎えた。



終戦直後の横浜駅西口広場



河合匡工学博士

と同時に自らが信頼していた河合匡工学博士の紹介で1948年（昭和二十三年）九月九日には長野市三輪田町一三六〇番地の徳武数次郎家から五男忠志（川崎市の東芝鋼管工業（株）主任）を迎え、翌1949年（昭和二十四年）四月に河合博士の媒酌で信子と結婚、この夫婦を養子にした。

その忠志、信子の間に1950年（昭和二十五年）二月六日、男児が誕生、源太郎と命名されたが、権田家では四代目にして初めての子どもだったことから藤三郎は「藤善」の雅号で「初孫の産声に餅こがしけり」、「麗かな恵みに藤の蔓芽吹きてやがて花薫るらむ」とその喜びを歌っている（1950年（昭和二十五年）八月）。

1949年（昭和二十四年）二月には資本金を二十五万円増資して百万円にしたが、四代目の結婚と五代目の誕生に権田藤三郎が行く末に安堵したのか、積年の苦労も忘れただかのように1950年（昭和二十五年）九月十一日、永眠した。享年六十五歳だった。

そして、苦楽を共にした妻モトも藤三郎亡きあとしばらく代表取締役を務めたが、1953年（昭和二十八年）一月二十七日に他界した。



1950年(昭和25年)6月 朝鮮戦争が勃発



2代目社長 権田忠志

### 権田忠志が二代目社長に就任

権田忠志は権田家に来てから権田金属工業(株)の取締役にはなっていたが、当時は買収した工場跡地のコンクリートをハンマーで壊して畑にしたり、権田藤三郎が生活協同組合理事長をしていたので市場から魚や野菜を仕入れるといった会社とは関係のない仕事をしていた。

その忠志が会社の仕事をするようになったのは1949年(昭和二十四年)二月頃からで、最初は取引先からの注文取りで、それを機に在庫管理、工場運転の維持管理、原材料の仕入れと手を拡げていった。

しかしながら、1948年(昭和二十三年)から1950年(昭和二十五年)前半にかけては敗戦の混乱期で会社もピンチに見舞われ、注文品だけでは資金が不足したため、電気銅などを売り食いする時代だった。

軍需工場に指定されていた関係で配給を受けた電気銅を五十tから六十t貯蔵していたのと、空襲で焼けた錫が三tから五tあったのでこれらを売り食いしたもので、一方で砲金あるいは黄銅を買い集めては熔解して二十kgから三十kgの丁金にしてアメリカに売ったりし日銭を稼いだのである。

そうこうするうちに1950年(昭和二十五年)六月



1953年(昭和28年) 創立35周年記念式典

に朝鮮戦争が勃発、伸銅業界もこの特需に預かって多忙を  
きわめるようになった。その好景氣を得て1951年(昭  
和二十六年)には住居兼事務所を改築、権田忠志親子と祖  
母モトが同居するようになった。そして1952年(昭和  
二十七年)九月、権田家四代目の忠志が権田金属工業(株)  
二代目社長として代表取締役役に就任した。

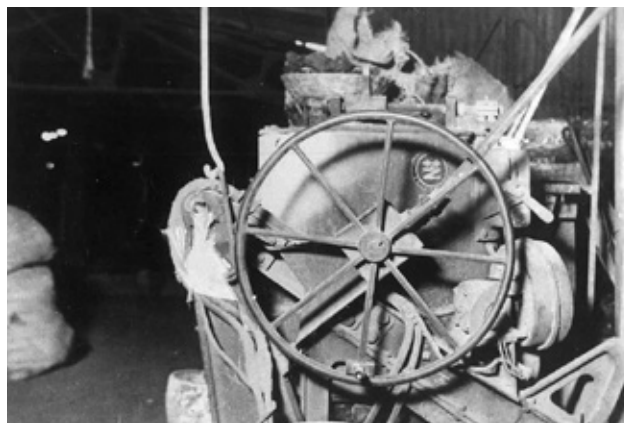
しかし、1952年(昭和二十七年)六月には朝鮮戦争が  
終結、特需もなくなったことからまた不景氣になった。そこ  
で二代目社長権田忠志は新たな事業展開をはかることにし、  
1953年(昭和二十八年)には銅を溶解する反射炉工場を  
建設した。鉄骨建て百二十坪の工場で、この年が創業三十五  
年にあたるので、これを記念する式典を行った。

と同時に同業他社に先駆けて黄銅の半連続鑄造機も導入  
し、1953年(昭和二十八年)十月に銅の反射炉熔解が成  
功したのを機に一tから二t、三tと次々に拡大していき、  
これにより黄銅棒と銅棒の製造が軌道に乗り、同棒は富士電  
機や東芝に納入した。また、銅帯を製造するため二段圧延機  
も導入、従来の黄銅棒、黄銅線に加え銅棒、銅帯を製品化した。

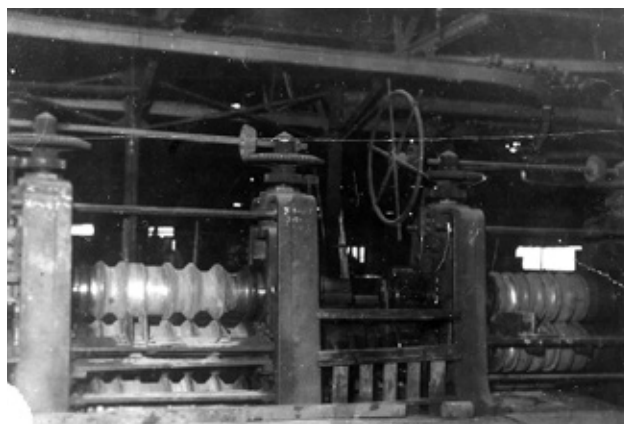
この間、資本金も1950年(昭和二十五年)八月  
には二百五十万円、1952年(昭和二十七年)十二月  
には七百万円、1953年(昭和二十八年)一月には  
九百五十万円と増資していった。



昭和20年代 横浜工場



昭和28年頃 横浜工場 電気炉



昭和20年代 横浜工場 旧3段ロール

### 三 横浜から相模原に移転



1955年(昭和30年) 当時横浜で使用していた圧延機  
相模原に移転後もしばらく使用されていた

#### 横浜駅西口の開発で移転先探す

1952年(昭和二十七年)から1953年(昭和二十八年)にかけての不況から一転、1954年(昭和二十九年)から1955年(昭和三十年)にかけては好況に恵まれた。この頃権田金属工業(株)はあらためて新たな課題を抱えることになる。1952年(昭和二十七年)頃から相模鉄道が始めた横浜駅西口の開発で、百貨店の高島屋の第一期工事が完成した1955年(昭和三十年)を機に周辺の開発が一気に進み、工場のある南幸町も工業の適地ではなくなったからである。

このため、南幸町西方に五千坪以上の土地を探すことになり、最初は1956年(昭和三十一年)に相鉄沿線の西谷の北側五千坪に白羽の矢を立て手付金一〇%を支払った。ところが横浜市から該地はグリーンベルト地帯なので工場立地は出来ないと言われた。そこで、同市に土地斡旋を要請した。

その結果紹介されたのが第二の土地、鶴見川の上流である。ところが、1957年(昭和三十二年)のキティ台風で関東地区の河川が氾濫、鶴見川も水があふれて、契約した該地がどこだったか判別出来ない状態になった。そこで県に将来の堤防計画を質したところ、計画によると予定



1959年(昭和34年) 相模原で工場建設工事が始まる

の購入用地の三分の一が取られてしまうことが判明した。このため土地取得を諦め、地耐力の測定料約二十万円の支払いを横浜市から受けるというひと幕もあった。

二度まで失敗した反省から次に目安をつけたのが相模原市だった。同市は1958年(昭和三十三年)の首都圏整備法に基づく工業の開発第一号地として指定されたが、その前から工場誘致を進めていた。

その相模原市小山区に適地があるという情報を得て権田忠志社長らは1957年(昭和三十二年)夏に現地を訪れた。その結果、当時の地主で現在相模原市議会議員を務める久保田義則氏ら十一人の心よい返事で一万坪を購入することを決断した。その上で1957年(昭和三十三年)十一月三日に坪千円の契約手付金を支払ったが、後に百五十万円を上乗せして本契約に至った。

折しも1958年(昭和三十三年)から1959年(昭和三十四年)にかけては横浜市南幸町の工場反射炉から発生する煙、火の粉や圧延作業による騒音に対して周辺住民から苦情が相次ぎ、火の粉で戸部消防署の消防車が出動することも四、五回あった。このため移転を急ぐことにし、1959年(昭和三十四年)からその工事に着手したが、相模原市への工場進出は一番がカルピス(株)、二番目が信和製作所(株)、三番目が(株)サンコー社で、権田金属工





相模原市に土地を取得 約一万坪  
当時の相模原駅舎

当社



1962年(昭和37年) 移転直後の相模原工場

業(株)は四番目だった。

この間、1956年(昭和三十一年)七月には資本金を千九百万円に増資した。

### 相模原市の工場誘致

相模原市は農業に不向きな土地が多かったため、1955年(昭和三十年)ごろから工場誘致に努めていた。権田金属工業(株)の相模原への移転もそれに乗ったものであった。

移転については、1959年(昭和三十四年)一月十日発行の市報相模原(第101号)に次のように触れられている。

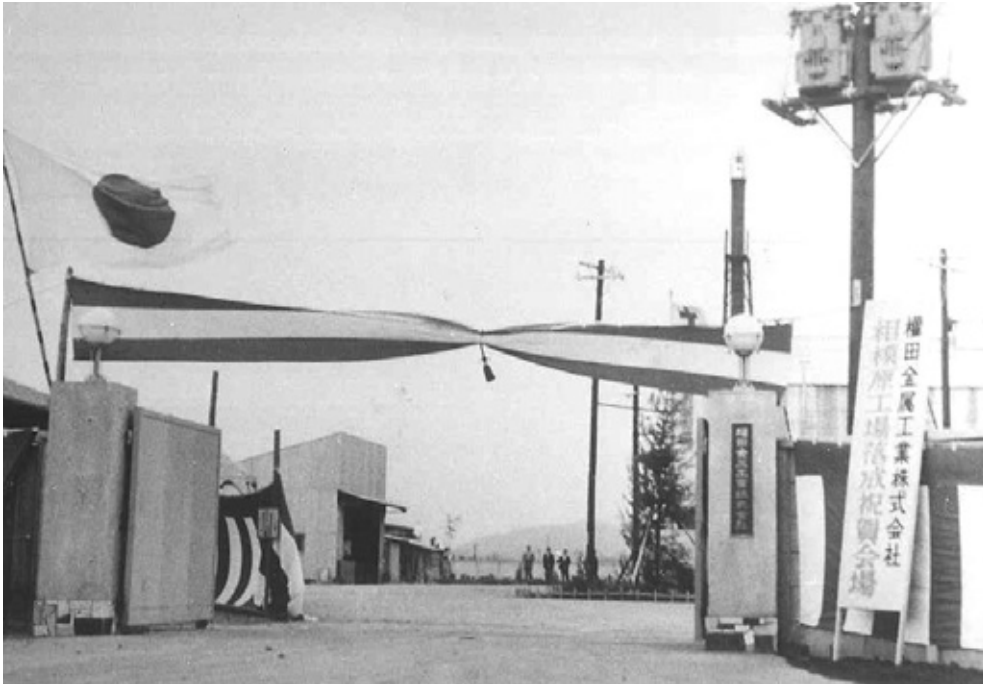


#### ことし初の工場誘致

昨秋以来、誘致を交渉中であった権田金属工業株式会社と本社横浜市西区 代表者権田忠志氏とが、このほど市内の小山字久保の工業地域に工場建設の決定を見たのでお知らせします。

この会社は、銅や黄銅などの製造を行ない、創業以来四十余年の経歴を持ち、将来を期待されています。工場は、敷地三万三千平方メートル(一万坪)で、事務所、溶解工場、





1960年(昭和35年) 相模原工場落成式

## 第一期移転

横浜の事務所、工場を全部移設するには当時で四億円から四億五千万円を要するという試算をもとに、資金不足をきたさないようにと、二回に分けて移転することになった。

そこで第一期で相模原に移設するのは溶解工場(三百五十坪)、圧延工場(四百五十坪)、食堂(八十坪)、仮更衣室・浴場(三十坪)とし、横浜には本社事務所と細物工場(引抜工場)、仕上工場を残す形にした。

その第一期工事を急ピッチで進めることになり、1959年(昭和三十四年)に着手したが、溶解、圧延工場の建設にあたっては圧延機前後のチルチングテーブル、連続加熱炉、大平ロール圧延機、小型三段ロール圧延機、巻取機、タンDEM圧延機などの設計を日本コンサルタント(株)に委託した。

溶解工場には黄銅電気炉二台(八十kw)を移設し数年後に東芝製二t電気炉を導入、銅反射炉は六tに拡張し、材料挿入を半自動化した。圧延工場には圧延機本体を移設し、前後のチルチングテーブルは人手を半数にすることにした。

こうして1960年(昭和三十五年)一月に移設後の操業を開始したが、マグネットクラッチが小型すぎて芯が狂っ



1960年(昭和35年) 第1期建築工事完了(相模原工場)



1960年(昭和35年) 秋季運動会



1960年(昭和35年) 権田金属工業野球部

たり、タンDEM圧延機の据えつけに失敗するというアクシ  
 デントもあった。しかし、その後順調に稼働し、1960  
 年(昭和三十五年)五月十日に落成式を挙げるに至った。  
 この第一期移転に要した費用は三億円だったが、  
 1959年(昭和三十四年)からの好況で借入金を大半返  
 済出来た。また、工場敷地が拡がったことで社員による野  
 球部も発足、大運動会を開けるようにもなった。



昭和36年 創立43周年

## 第二期移転

第一期移転が終わった後も好況が続いたことから1961年（昭和三十六年）八月には利益準備金百万円を組み入れ資本金二千万円に増資、同年十二月には新株発行で増資し四千万円にした。

こうした順風満帆の中で1961年（昭和三十六年）後半から第二期移転工事に着手、細物および仕上の製品工場二棟（六百五十坪）、食堂および更衣室・浴室の本建築（百二十坪）、事務所（八十坪）の建設に入った。

その結果、二億五千万円を費やして1963年（昭和三十八年）八月に移転を完了すると共に、本社所在地も神奈川県相模原市宮下一丁目一番十六号に変更したが、各機械の完全運転には二、三週間を要し、取引先から苦情を受けたりした。また、相模原に営業活動を移すには若干の戸惑いがあったため横浜の事務所は残すことにしたが、本社との連絡が行き届かないため四ヶ月で横浜を閉鎖し、相模原に統合した。

会社はこの頃から「良品共栄」をモットーに掲げるようになった。権田忠志社長はこれに触れて当時、次のように記している。

「更新をやって行かなければ決して永遠の企業はない。更



昭和36年5月 社員旅行



東門 門扉表示

新なき企業は衰退する。今日の夢は明日へつながり、これに打ち勝つところに限らない発展がある。それから仕事は自ら求めるということ。難事！一番むずかしい仕事から先に一つ解決する。途中で放棄してはならない。これは研究でも何でもそういうことを成文化して進める。今日の様に市場が全世界となっている時、世界人として信用を獲得するには良品を廉価に作る事にたくましく競争力がなくてはならない。最後に企業は人なり。人材は得難い。常に自らを反省し、健康を保ち、知にあふれ、責任を全うする人である事を期され度い」

## 四 業務多角化を推進



1950年(昭和25年)  
第1権田ビル用地周辺図

### 横浜工場跡地に第一権田ビル

相模原移転を完了した後、跡地については当面、駐車場として貸すことにし、1964年(昭和三十九年)にその整備をし約百三十台分を配置、結構な日銭を稼いだ。

1963年(昭和三十八年)後半から始まった不況は1964年(昭和三十九年)、1965年(昭和四十年)とどん底に陥り、その上に社員の八百八十万円にのぼる横領や労働争議が発生、残業拒否に端を発したこの争議は会社が裁判所に提訴して勝つことが出来た。また、1968年(昭和四十三年)の創業五十周年の時も社員慰安旅行から帰った日、いきなり賃上げ要求をし、拒めばストを決行するという労働争議が発生したが、これも裁判所に提訴し、会社の正当性が認められた。

そのような様々なことが起こる中で、1965年(昭和四十年)には三千五百万円の赤字に陥り、税務調査に来た署員から、「この状況ではやっていけないのではないか」とさえ言われた。

このどん底を救ったのが横浜の跡地利用だった。

1964年(昭和三十九年)から1965年(昭和四十年)にかけて、この横浜工場跡地の買取話が何度かあった。しかし、会社は坪四十万円で売りたいのに相模鉄道や小田



第1 権田ビル  
(1・2階ダイエー／3～10階UR住宅)

急電鉄から来た話は坪二十万円だった。これでは話にならないので断ったが、不況のさなかだっただけに坪三十万円の話が来たら売ったかも知れない。そんな買収話はなかったのが後に幸いした。

そこで1966年（昭和四十一年）十月、約千七百坪の跡地に一区画三十坪で三十区画を分譲する計画をつくり、それには4mの道路が必要なためその指定を受けるべく横浜市建設部長に相談した。そうすると、土地を提供すれば日本住宅公団が店舗兼共同住宅を建設するという話を持ちかけられ、一カ月ほどかけてこの方法を検討した結果、同意することにした。1967年（昭和四十二年）一月には前述の相模鉄道から坪四十万円で買うという話が持ち込まれたが、間一髪遅かりしであった。

店舗兼共同住宅計画はこれにより一気に進み出し、1967年（昭和四十二年）春からテナント探しに奔走、権田忠志社長らが横浜市内の赤玉デパート、明治屋、赤札堂、川崎市内のスーパーサンコー、都内の三越、松坂屋、高島屋、松屋、東武の各百貨店やスーパー西友を訪れ、大阪のダイエーにも足を延ばし中内社長の実弟中内専務にも会った。

その結果、出店候補をスーパーサンコーとダイエーに絞ったが、坪二千円の家賃（五年間は坪千六百円）と建築費相当額を保証金として支払うことを提示したサンコーの方が





1966年(昭和41年) 当時の役員  
前列右から皆本監査役、権田社長、下田取締役、後列右から平島、徳武、権田各取締役

ダイエーより条件が良かったことから、サンコーに決定した。これ以降公団をまじえた三者協議で、会社がテナントに貸し出す持ち分は一、二階、三階から十階までを公団分とした正式契約を結んで建設に着手、第一権田ビルとして1968年(昭和四十三年)十一月十五日に完成した。

## 第二権田ビル建設と東京営業所の開設

第一権田ビル建設にあたって会社が用意した資金は日本住宅公団に売却した土地代金一億三千万円と相模原の土地三千坪を売った分など含めて二億八千四百万円で、支出したのは住宅立ち退き料、建設費の会社負担分をあわせて二億円で、総額八千万円は会社の有利子負債の返済に充てた。

また、サンコーからの家賃収入は本社工場の合理化資金に投入、1969年(昭和四十四年)から1970年(昭和四十五年)にかけてはまたもや不況だっただけに、第一権田ビルは会社の命綱にもなったのである。

ところが一方で、日本住宅公団に売却した土地代金の入金を当時の顧問税理士が二回に分けて申告したことにより厚木税務署から約二千六百万円の追徴金請求を受けるに至った。このため会社は、国税局を相手に「国の政策に協力しているのになぜ追徴金を払わなくてはならないのか」



第2 権田ビル(テナントダイエー)

と主張、徹底的に闘った。この結果、支払わなくても済むようになったが、無駄な時間を費やした責任をとってもらうため同税理士と契約を打ち切るというトラブルもあった。

その第一権田ビル建設が一段落した後、今度は横浜の残された跡地五百三十坪にダイエーをテナントとした地下二階地上八階建ての第二権田ビルの建設に着手、1972年（昭和四十七年）四月に完成した。ダイエーから要請を受けて約十億円を投じて建設したのだが、第一ビルのテナント、サンコーは後にダイエーに吸収合併されたため、第一、第二ともダイエー店になったのである。

一方、それまで本社に置いてあった営業部を独立させることにし、1973年（昭和四十八年）四月、東京都世田谷区桜ヶ丘四丁目目に東京営業所を開設した。取引先からの情報入手のスピードアップと即納体制の在庫管理を徹底させるため、遠戚を通じて土地四百坪を取得、倉庫、事務所などを建設したもので、これらに約三億円を投じ、初代営業所長に徳武雅英常務取締役を充てた。

1969年（昭和四十四年）、1970年（昭和四十五年）の不況を経て1971年（昭和四十六年）から景気は持ち直してきたが、不況のまっただ中の1970年（昭和四十五年）十月に権田忠志社長は社内報に「厳しい条件下で利益をみつめ倒産から企業を守れ」という一文を寄せた。



1968年(昭和43年) 創立50周年 役員・永年勤続表彰者

その内容が平成不況の今(1998年(平成十年))とよく似ているので、全文を再掲載する。

「東京商工興信所の調べによると、六月の倒産件数は八百七件、負債総額は七百二十五億六千四百万円で、件数は前月比一%増、金額は二・五%増。これを昨年同月比で見ると、件数で二一%増、負債総額では実に二倍以上の一〇一・四%増である。件数が横ばいの割合に負債総額が大きいの、急成長のあまり、設備投資をやりすぎた中堅企業の倒産が多くなったからだ。

つぶれる原因は直接的には金融引締めによるもので、面倒をみてくれていた商社が手を引いたとか、銀行が融資を断ったことによるものが多い。だが倒産原因は長期間、既に企業内に潜んでおり、あぶない経営に火をつけたのが金融引締めである。対米輸出の不振、自動車、鉄鋼の減産をはじめ、売上げ伸び悩みの環境にあつて、金づまりが加わっているから、これから倒産も高水準になるだろう。企業をとりまく環境は流動的である。

技術革新により、生産は洪水のごとくつくりだすが、消費は無限というわけにはいかない。どの業界も販売と生産とのアンバランスに苦しみ、業界再編成が強行されよう。景気の山と谷は自律作用としてあらわれ、その景気調整の転換期に直面する企業は、適応力をテストされるのである。



1968年(昭和43年) 創立50周年

代金回収・原料・仕掛品・商品の在庫コントロール・市場  
征服の販売など、資金回転率のコントロールの巧拙が業績  
を左右する。管理力の格差がものをいう。

景気が山から谷へ、谷から山へと移行するとき、企業の  
自力がはっきりと露出してくるのだ。つぶれる原因は急に  
生まれない。つぶれるとすればどんなことでもつぶれるのか  
マイナス条件を徹底的に分析し、調べ上げることが発展の  
原則である。

利益があれば甘い解釈をして自力で稼いだと錯覚するが、  
鋭く利益を左右する条件を検討することだ。人件費・研究費・  
販売促進費・教育費にしても、標準なみに支出して、利益  
がでているか、きびしい条件のもとに利益を見つめてゆく  
ことが、倒産から守る日常の姿勢である」

### グループ企業

初代社長権田藤三郎の養子となった信子の弟権田昭吾氏  
は、株式会社権田地銅店を1957年(昭和三十二年)一  
月に設立して、地金商を開業した。

権田金属工業(株)は株式会社権田地銅店を黄銅材料の  
主仕入先として、すこぶる親密な関係にあった。権田昭吾  
氏は商才に長けて年商も増加の一途にあって繁栄していた



第1 権田ビル

1974年(昭和49年) 横浜駅西口 左下に第1 権田ビル

が、病魔に犯され1981年(昭和五十六年)十二月急逝した。五十一歳であった。

社長の死去に伴い権田地銅店は地金商を廃業したので権田金属工業(株)は、株式会社権田地銅店に代って、黄銅材料を仕入する相模金属株式会社を1982年(昭和五十七年)七月設立した。

これに先立ち権田金属工業(株)は第一、第二権田ビル建設による不動産管理進出などにより権田総業(株)など関連企業を相次いで設立した。企業名と当時の代表者、業容、所在地、設立年月日は次のとおり。

権田総業株式会社(権田忠志社長) 不動産賃貸、ゴルフ練習場  
横浜市西区南幸町二丁目一六番一号

1976年(昭和五十一年) 四月九日設立  
権田運輸株式会社(徳武雅英社長) 権田金属工業(株)の製品運送  
相模原市宮下一丁目一番一六号

1978年(昭和五十三年) 四月十四日設立  
相模金属株式会社(権田源太郎社長) 権田金属工業(株)の材料買入  
相模原市宮下一丁目一番一六号

1982年(昭和五十七年) 四月二日設立  
横浜伸銅株式会社(古川進社長) 伸銅製品の販売

横浜市神奈川区神奈川二丁目一〇番地の一五  
1961年(昭和三十六年) 五月十五日設立

## 五 さまざまな施策



東京営業所(事務所と製品倉庫・賃貸マンション併設)

### 設備更新で製造効率高める

1972年（昭和四十七年）から持ち直し始めた景気は1973年（昭和四十八年）十月のOPEC（石油輸出国機構）による七〇％近い原油値上げを機にオイルショックをもたらし、日本でもトイレットペーパーや洗剤不足といった社会不安を起こす事態になった。

権田金属工業（株）ももちろん、この余波を受けた。1973年（昭和四十八年）末当時は八百七の受注残を抱えていたので仕事があったが、その後急ピッチな価格下落や取引中止が相次いで受注減となった。

しかしながら、前年開設した東京営業所が抱えていた在庫品の売りつなぎや権田ビルの家賃収入、不断の合理化によりこの異常不況もなんとか乗り切ることが出来た。

この当時、権田忠志社長は「伸銅所というのは二、三カ月注文が減ると、その後には必ずこの補充買いがきて注文、価格も回復していく繰り返しである」と述懐しているが、そんなサイクルに持ちこたえられず、このオイルショックで廃業もしくは倒産した同業者は大小二十社から三十社あったとされており、1965年（昭和四十年）当初百三十社くらいあった伸銅所はその後十年間で百社くらいになったが、このオイルショックを機に八十社ほどになっ



1978年(昭和53年) 創立60周年

たとされている。

そうした中で権田金属工業(株)は生き残り、1974年(昭和四十九年)五月には資本金を六千万円まで増資するに至った。

しかもこの時期、社内改革にも取り組み、役員定年の申し合わせを行い取締役は六十一歳、常務取締役以上は六十三歳、社長は六十五歳を任期にした。また、1975年(昭和五十年)にはそれまで七時間だった定時間を一日八時間作業にして土曜日も休日とする週休二日制を業界で先がけて実施もした。

権田忠志社長がその一方で果敢に取り組んだのが設備の更新である。その前段として1972年(昭和四十七年)には相模原の本社工場で六ト反射炉を操業している際に北風が吹くと、南側の住居から「煙が部屋に入ってくる」という苦情を受けて操業を止めた経緯もあった。そこで、発生屑をリターン材としてビレット、棹銅を購入しこの問題を解決したが、これにより銅の製造も飛躍的に生産性が向上した。また四面面削機の導入で銅帯の製造方法も改革した。

こうした経緯を踏まえて権田忠志社長は会社の将来像を描いて設備更新計画と新規分野への進出を策定すると同時に東京営業所開設の布石も打った。その計画は①鍛圧工場



1000tプレスとマニプレーター

の建設②圧延工場の改造③押し出し工場の新設④アルミリング製造などである。

このうち、鍛圧工場五百六十坪が1982年（昭和五十七年）八月に完成した。一千t油圧プレス機、リングローリングミル機、マニプレーター各一、加熱炉三、4.5M旋盤二、利根切断機、プレス各一、アマダ切断機二、リング切断機一などの機械を導入して建設したもので、この資金として無償で町内会に貸していた横浜の六十坪の公園の土地を返却してもらい売却、相模原の社宅の土地四百坪も売却し、四億二千万円を投資した。

これによりすべての鍛造が可能になり、銅リング、黄銅円盤、銅球などを製造、経営に多大な寄与をするようになった。また、1982年（昭和五十七年）七月には約一億一千四百六十万円を投じ熱風循環式焼鈍炉の円型ガス炉も設置した。これによって従来の二・五tの円形鑄鉄材を壁にした焼純炉のかさむ修繕費の節約が可能になり、これら設備更新により製造効率はいより一層高まることになった。





1983年(昭和58年)  
三代目権田社長と



初代社長の胸像前 二代目・三代目社長と弟の取締役

### 三代目社長に権田源太郎就任

1983年(昭和五十八年)一月、権田忠志社長が満六十五歳になったのに伴い、先に申し合わせたとおり代表取締役社長の座を退いて取締役相談役に転じた。

入れ替わって代表取締役社長に就任したのは長男権田源太郎で、権田家では五代目の世継ぎになり、社長としては三代目になる。

三代目は1973年(昭和四十八年)三月に慶応義塾大学経済学部を卒業し翌四月に商社の(株)トーマンに入社、1977年(昭和五十二年)十月に権田金属工業(株)に入社し営業部門を中心に修行を重ね、社長に昇格したのである。この時、徳武雅英が代表取締役会長に選任されている。その権田源太郎社長が最初に取り組んだのが二代目社長時代に策定された設備等更新計画の仕上げである。

1964年(昭和五十九年)九月から着手された工事は完全自動化圧延工場(五百坪)、製品倉庫(百六十坪)、総務・製造事務所(百九十八坪)、倉庫・更衣室・浴場(百三十五坪)で、これらは1966年(昭和六十一年)十二月までに完成した。

このうち圧延工場の新設はそれまで八人から九人があっていた作業を四人から五人に半減し効率アップを目指



コンピュータ制御の大圧延機

すためのもので、設計の中心はロール径を大きくして従来の三段式ロール圧延機を二段式可逆圧延機に切り替えることだった。

この建築費および機械・電気設備に約五億円を要し、このほか総務・製造事務所などの建築費を含めると約六億円を要したが、この資金は世田谷区桜ヶ丘の土地四百坪を権田総業（株）に売却した代金で賄った。

完成したコンピュータ自動制御による新圧延機の試運転は1987年（昭和六十二年）三月四日だったが、小さな事故が多発、正常運転が出来るようになったのは三、四カ月後だった。しかし、作業員は三人から四人で済むようになり、今では生産工場としての拠点を担っている、

さらに1988年（昭和六十三年）初めからはアルミリング製造計画に着手し、アルミ加熱炉、切断機、三方締正面盤などを整備、1989年（平成元年）六月から本格的製造を始めた。

一方で1989年（平成元年）九月には東京都世田谷区にあった東京営業所を渋谷区東三丁目二二番八号に移転した。



GK厚木マンション

## GK厚木マンションの建築

1987年（昭和六十二年）十月に東京都世田谷区にある土地四百坪を子会社の権田総業（株）に売却したが、薄価が低い為かなりの利益計上が予想されるので、節税を考へ他に土地を買い求め、マンションをつくることにした。

そこで横浜線を初め小田急線、田園都市線の沿線各地で売却する土地を相当の時間をかけて探したが、適当な土地が仲々見つからなかった。たまたま厚木にある不動産会社に電話で売却物件があるか問い合わせると、厚木市戸室に一千七・二平方m（三百七・七坪）の土地があるというので、早速見に行き即日買うことを決めた。

マンションをつくるにあたっては厚木市に開発行為申請の為の諸申請書を提出し許可を得ることが必要で、建築確認通知を得るまでにかかなりの日数を要した。中でも日影となる近隣の住民や隣接する土地所有者全員にマンション建築の了解を得ることが許可の条件の一つと言われたので、該当する近隣の住宅や隣接する土地の所有者を個別訪問して説明したが、一回の訪問では了解が得られず、更に訪問先の相手の時間的都合が早朝であったり、夜遅くであったり、また日曜日以外は駄目という家もあり文字通り「夜打ち朝駆け」の繰り返しであった。



1988年(昭和63年) 創立70周年記念式典



1988年(昭和63年)  
創立70周年記念式典 役員・永年勤続者



1989年(平成元年) 70周年記念式典で来賓を迎える権田社長夫妻

こうしてやっと了解を取りつけたマンションの計画は六階建てで、2DK十二戸、2LDK六戸、3LDK十一戸の計二十九戸で、村田総合設計事務所が設計し、東海興業(株)の施工で建築費と土地代金あわせて約十一億円をかけた1990年(平成二年)二月一日に着工し翌1991年(平成三年)二月二十日に竣工した。



現在の日本工業規格(JIS)認証書

## JIS表示許可工場となる

当社は、それまでJIS表示許可工場ではなかった。許可を受けていなくても自社の製品品質に自信を持っていたこともあったが、それでは済まない時代になりつつあった。申請準備には、規格協会から推薦されたコンサルタントにお願ひして準備を進めた。必要な書類の整備に取り掛かり、それまでの品質管理体制の見直しも行った。社員の意識改革や教育にも時間をかけた。コンサルタントにお願ひする前の社内の勉強会から数えると足掛け七年もかかったが、準備に時間をかけたことは、その後の円滑な運営にうまくつながった。

1991年(平成七年)四月、通商産業大臣から伸銅品の日本工業規格(JIS)表示許可工場としての認可を受けた。JIS工場になったことは、品質保証体制がはつきりしたことだけでなく様々なメリットがあった。社員の責任感や誇りが増したことも重要であったが、対外的な信用度が向上したことも大きかった。特にエンドユーザーの重電メーカー様向けの販売には効果があった。



1993年(平成5年) 630t冷間鍛造プレス



1991年(平成3年) 無酸化焼鈍炉

## バブル景気と難しい企業経営の時代

それまでの円高不況に変わり、1987年(昭和六十二年)からは景気は目に見えて良くなってきた。当社の業績も1988年(昭和六十三年)から1991年(平成三年)の三年間、旺盛な需要に支えられて好調であった。月生産量は1991年(平成三年)四月には今までで最高の618トンを記録した。この時期はいわゆるバブル景気の時代であった。バブル景気では景気が良いだけでなく、株や土地の資産価格も大きく上がったが、これは社会に大きな歪みを生じさせることになった。やがて景気過熱と土地価格の上昇を抑える政策がとられたが、この一連のバブルつぶしは経済を冷やしすぎた面があり、1991年(平成三年)になるとバブルは崩壊し、景気は急速に悪くなった。当社も受注が減少し、生産量は1992年(平成四年)八月には405トンにまで落ち込んだ。その年第59期の九月決算では、伸銅部門は大幅な赤字になった。

その後、伸銅業界全体としては良くなかったが、当社としては1992年(平成四年)から1996年(平成八年)にかけては、半導体製造装置向けの黄銅太丸棒が大量に出たために好調であった。しかし、その需要が一巡すると受注が減少し、また採算割れに陥った。



護国寺 権田忠志社長の葬儀

バブル崩壊後、日本経済は一時持ち直しかけたが、不良債権処理を思い切ってやらなかったことが尾を引き、1990年代後半にかけて大手の銀行や証券会社が倒産するなどの金融恐慌につながってしまった。当社の準メインバンクであったメガバンクからは貸し渋りを受けたが、メインバンクである地元の横浜銀行からは変わらぬ取引を受けることができ、資金調達の面では問題がなかった。また横浜のビルからの賃料収入により合計で収支が赤字になることはほとんどなかった。

そうした中、1995年（平成七年）十一月四日、二代目社長で最高顧問になっていた権田忠志が永眠した。その葬儀は十一月七日の密葬の後、十二月四日午後一時から東京都文京区大塚五丁目の護国寺桂昌殿でグループ各社の合同社葬により厳かに執り行われた。

バブル崩壊後、事業環境はそれ以前と比べて格段に厳しくなっていたが、必要な設備投資は行ってきた。

この時期の主な設備投資には、630トン冷間鍛造機、コンフォーム押出機、アップワード型連鋳機の三つがあげられる。1993年（平成五年）から1999年（平成十一年）にかけて約4億円をかけて設備を行った。

冷間鍛造機の導入によって、銅ボールの生産量を飛躍的に増やすことができた。もともと銅ボールは、戦前からの



アップワード(豎型連続铸造機)



コンフォーム

重要なお得意様であった内田(株)が、当社より素材を購入して外注を利用してボールを作っていたものであった。この設備のおかげで内田(株)が2004年(平成十六年)に廃業されてからは生産の肩代わりをすることができた。

コンフォーム押出機は英国から輸入したものであり、荒引線から銅ブスバーや丸棒を作ることのできる設備である。当社の設備はもともと太物に適しており、細物の生産が苦手であったが、銅についてはこの設備によって、細物のブスバーや丸棒が作れるようになった。

アップワード豎型連続铸造機も英国から輸入したものであり、高品位の無酸素銅荒引線を作ることができるが、現在は運転をやめ外部購入に切り替えた。



## 六 新たな発展に向けて



打席(上段)  
打席から見た風景(下段)



1993年(平成5年)当時の敷地北側の農場

### ゴルフ練習場ボールパーク開設

1993年(平成5年)当時会社には約1700坪の遊休地があった。オーナーの忠志は農業にも関心があったので、この遊休地で長年馬鈴薯や葉牡丹、ジャガイモを育ててお客様に配り喜ばれていた。しかしバブル景気の地価の上昇に伴い固定資産税も負担が重くなっており、会社としてこの遊休地の利用が経営課題になっていた。

1997年(平成9年)四月三日、権田金属工業(株)は業務多角化の中でも全く異分野のゴルフ練習場ボールパークを開設した。

この計画の発端となったのは当社工場に隣接する越藤電機(株)による工場用地譲渡話である。同社から最初にこの話があったのが1995年(平成7年)三月で、六百三十七坪を売却したいという申し出があった。県道相模原立川線に面した土地で、これを買収、これにより当社の空き地は従来の千七百六十三坪と合わせて二千四百坪になり、道路に面していることもあってこの有効利用を検討していた翌1996年(平成8年)には越藤電機が相模原工場を閉鎖することを決め、残りの土地千百坪も処分することになったことから、これも買収、結果として三千五百坪の土地になったことから有効利用を再検討し、ゴルフ練



1997年(平成9年)4月 ゴルフ練習場ボールパーク開業

習場を設けることにしたのである。

ところが、この計画を相模原市に相談したところ、この土地は工業専用地域で、1996年(平成8年)5月以降は営業出来る業種が制限されるという。そこで1996年(平成8年)5月十日までに建設許可が受けられるようゴルフ練習場計画を急ぐことにして、なんとか間に合わせるこゝとが出来た。そのゴルフ練習場は鉄骨三階建てで、クラブハウス(約千八百平方m)と七十二打席、二百二十ヤードは相模原市のゴルフ練習場としては最大規模。ボールの高さは約六十mあり、天井部にはネットがないため広大なフェアウェイの開放感も満喫出来る。一階のフロントも広々としている上にゴルフ用品店や喫茶室もあり、訪れる人たちが「ゆっくりくつろげる」と好評である。

また、一、二階の打席には最新のオートティーアップ方式を導入、三階は半自動のオートティーアップ方式にしている。また、プリペイドカードでプレイ出来、ボール単価と打球数、残球数が表示される。八十八台収容の駐車場も併設しており、四月二日のオープンセレモニーは相模原商工会議所の篠崎源太郎会頭をはじめ地元企業の経営者、工事関係者、近隣の住民らが出席、賑やかに行われた。

権田源太郎社長はこの異分野進出について「広い遊休地を生かす上でゴルフ練習場は人材や経営ノウハウが比較的

少なくて済む点が魅力だった。レジャー産業は今後なお発展する傾向にあり、製造業とは違う意味でやりがいがある。それに何よりも憩の場として地域との絆が生まれることが嬉しい。

として、業務多角化の中でさらなる発展に向けた挑戦を続けている。

### 顧客満足度向上を目指した活動

当社は、1991年（平成三年）四月にJIS表示許可工場になっていたが、より顧客満足度向上を目指すための組織づくりの一環として、ISOの取得を目指して1990年代後半より活動を始めた。ISOは国際標準化機構の略で、国家間に共通な標準規格を提供することを目的に設立された非政府組織である。ISOにはいろいろなものがあるが、当社ではその中で、よい製品を作るためのシステム管理について定めているISO9000番台の取得を目標とした。1998年（平成十年）二月に社内取得に向けた組織の立ち上げを行い、コンサルタントは日本検査（株）に依頼した。

JIS表示許可工場になった経験を活かすこともでき、準備は順調に進んだ。登録機関には日本検査キューエイ（株）



ISO登録証

を選び、1999年（平成十一年）八月にISO9002の認定を受けることができた。

その後は毎年の更新審査を受け、またISOが改訂されるたびに変更を行ってきた。ISO9002は、設計と開発を除いた製造据え付け及び付帯サービスにおける品質保証モデルを対象にしているが、当社でも設計、開発を行うようになってきたので、2002年（平成十四年）八月には9002から9001に変更を行った。現在は2015年（平成二十七年）に大幅に改定されたISO9001:2015を取得している。

JIS規格との対応では、JIS規格も時代とともに変化してきている。2000年（平成十二年）に発行されたJIS Q 9001:2000（ISO 9001:2000）では、ISOの考え方を取り入れ、従来の品質管理システムの考え方から「製品の品質保証に加えて、顧客満足度の向上を目指す」品質マネジメントの考え方に変化した。

当社では、今後もJIS規格並びにISOの規定に準拠しつつ、法令を遵守することはもちろんのこと、さらなる顧客満足度向上を目指す行動を続けていく。

単位(t)

| 年    | 銅製品     | 黄銅製品    | その他合金  | 合計        |
|------|---------|---------|--------|-----------|
| 1946 | 7,395   | 24,800  | 742    | 32,937    |
| 1950 | 18,167  | 57,899  | 2,358  | 78,424    |
| 1960 | 76,293  | 181,669 | 9,738  | 267,700   |
| 1970 | 149,264 | 375,075 | 24,395 | 548,734   |
| 1980 | 279,898 | 556,114 | 37,684 | 873,696   |
| 1990 | 479,058 | 638,394 | 62,463 | 1,179,915 |
| 2000 | 563,198 | 519,409 | 85,142 | 1,167,749 |
| 2005 | 486,599 | 433,892 | 68,451 | 988,942   |
| 2010 | 444,777 | 358,422 | 63,964 | 867,163   |
| 2015 | 393,822 | 320,907 | 51,060 | 765,789   |
| 2017 | 431,619 | 337,612 | 52,480 | 821,711   |

日本伸銅協会生産量推移(暦年)

## リーマンショック以降の伸銅業

2000年代に入り、権田金属工業(株)の伸銅部門は厳しい収益状況ではあったが、低成長の状況に対応しつつ新規開発などにも取り組み始めていた。しかし、その矢先に起きたのが、リーマンショックであった。

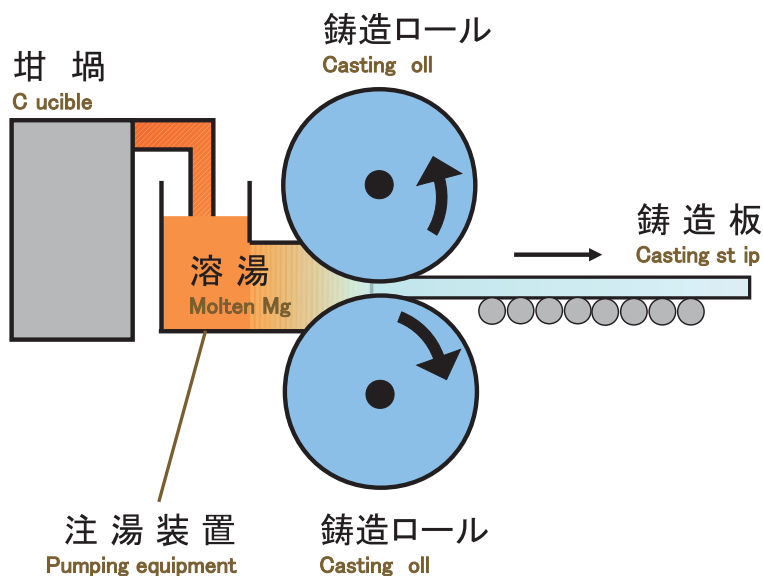
2008年(平成二十年)九月十五日、アメリカ合衆国の大手投資銀行であるリーマン・ブラザーズ・ホールディングが経営破綻し、これが引き金となって、米国国内にとどまらず世界的な金融危機となった。世界経済は大きく落ち込み、日本の金融機関はリーマンとは直接的な関わりは少なかったものの、円高と世界的な景気低迷を受けて日本も大幅な景気後退となった。

日本国内の伸銅品生産量は、2007年(平成十九年)には年間100万トンを超えていたものが(ピークは1991年(平成三年)の124万トン)、2009年(平成二十一年)には65万トンと約35%落ち込んだ。景気後退だけでなく、その後の大幅な円高によりユーザの海外生産が進んだことも、国内需要の減少に拍車をかけた。国内の伸銅品生産量はいまだに約82万トンと、リーマンショック前の20%ダウンの水準にある。

権田金属工業(株)の伸銅品受注量も第75期(2008

# 鑄造機

Casting machine



年（平成二十年）九月決算）の月平均450トンから、2009年（平成二十一年）一月には240トンまで落ち込んだ。その後リーマンショック前の30%ダウンぐらいが続いたが、ここ数年の需要回復を受けて20%ダウンまで回復してきた。当社はこの水準で黒字化を図るとともに、新規開発にも力を注ぎ新たな成長を目指している。

## マグネシウムへの取組

マグネシウムは実用上最も軽い金属であり、資源の量も非常に豊富であるが、板の利用はまだ少なかった。当社は大学の先生方のご協力を得て2002年（平成十四年）よりマグネシウム合金板の開発に取り組んだ。

開発は幅100mmの実験機での試作から始め、2003年（平成十五年）十月には経済産業省の創造技術研究開発助成金を得ることにより、幅300mmの実証機を入れることができた。またこの時期、独自の双ロール鑄造（GTRC Gonda Twin Roll Casting）にかかわる特許も取得した。その後もマグネシウムに関する特許を数多く取得している。

2007年（平成十九年）には、神奈川県並びに相模原市での研究開発型の企業の集積を図ることを狙いとした、



2012年(平成24年) IMA総会でのパーティーにて



2012年(平成24年) 5月 権田社長のIMAでの講演  
(米国サンフランシスコ市)

神奈川県産業集積促進助成金(インベスト神奈川)及び相模原市産業集積施設整備奨励金(STEP50)も利用して、幅600mmまでの板を作れる、溶解、鋳造、圧延、研磨までできる設備と建屋を取得した。助成率約20%であった。その後同設備は、2013年度の経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)を取得することによって、3年間かけて改良を施すことができた。

その間2008年(平成二十年)には、マグネシウム合金板の開発と高いシェアを持つモータ用銅リングの製造による産業界への貢献により、中小企業庁が2006年度より認定している「元気なモノ作り中小企業300社」にも選ばれた。

建材用ではアサヒサンコー(株)の要請によりエキスパンションジョイント用の合金AZX612を開発し、2013年(平成二十五年)十一月に国交省の不燃認定を取得することができた。

このエキスパンションジョイントに関しては、2015年(平成二十七年)五月にカナダ、バンクーバーで開催されたIMA(国際マグネシウム協会)の年次総会において、優れた用途開発とそのデザインの良さにより、デザイン賞を授与された。また、2018年(平成三十年)九月四日には相模原市長より、相模原市トリアル発注認定制度の



高速鉄道車両の構体(マグネシウム合金製)  
(ISMAホームページより)



IMA盾

認定製品として表彰された。

厚板の開発に関しては、独自に上方铸造（反重力铸造）法による铸造方法を検討し、開発に成功した。これにより、双ロール铸造によらずに丸棒铸造、厚板铸造も可能となった。この方法で製造される厚さ3mm以上の厚板は品質も良く、開発に向けての社内体制も評価されて、高速鉄道向けの軽量部材開発を目指す新構造材料技術研究組合（ISMA）に、マグネシウム合金中板厚板開発のメーカーとして参画することとなった。当初は2013年（平成二十五年）十二月に再委託先として参画したが、実績が評価されて再委託先から格上げとなり、2016年（平成二十八年）三月からは組合企業として参加することになった。

マグネシウム合金の市場は発展途上ではあるが、その軽さと金属としての特性から採用に前向きな企業は着実に増えてきている。「Think light for a better life!」を目指して努力を続けていきたい。





本社事務所

## 隣地買収とGK厚木マンシヨンの売却

2010年（平成二十二年）十一月に、隣地を買収しないかという話を持ち掛けられた。隣の日東鉄工（株）が廃業することになり、その土地1500坪を建物付きで現況のまま買わないかということであった。すぐに利用するあては無かったが、商売の教訓として、「隣の土地は借金してでも買え」と言われることもあり、買収することにした。2010年（平成二十二年）十二月十五日に契約し、これで相模原の本社工場はボールパークを含め12000坪になった。

その後、事務所棟は改修したうえで、総務・営業事務所と社長室として利用し、工場建物はマグネシウム第二工場並びに検査分析室として利用している。

GK厚木マンシヨンは、賃貸マンシヨンとして毎期収益を上げていたが、バブル期に建てたためにその後の土地価格の値下がりですべて評価損が出ていた。権田金属工業（株）と権田総業（株）との共同所有であったが、評価損を表に出すためにこのマンシヨンを子会社の幸エステートに2010年（平成二十二年）八月に売却した。

その後、アベノミクスによる景気回復により土地価格も上昇してきたので、幸エステートはこのマンシヨンを



第1・第2 権田ビル

2013年(平成25年) 横浜駅西口

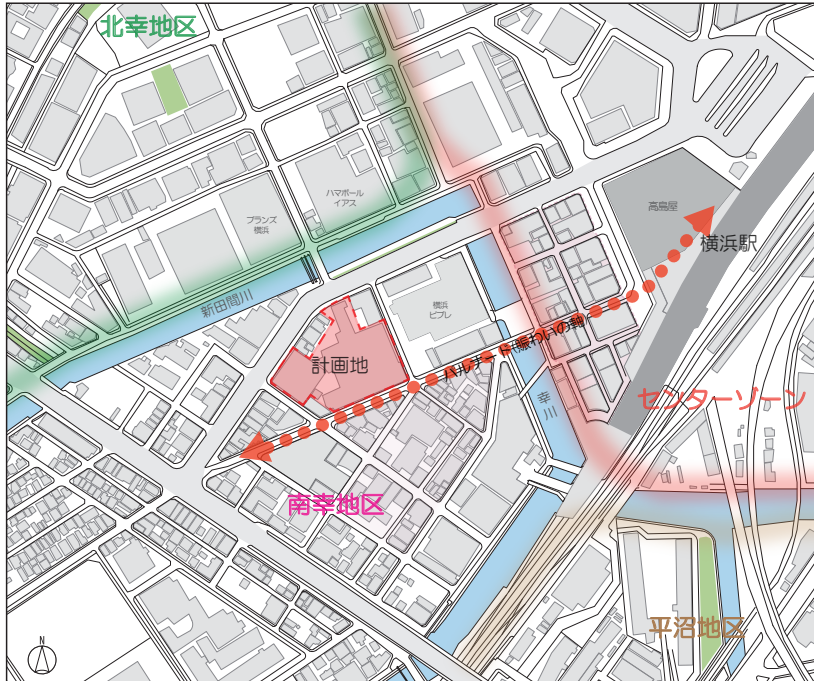
2018年(平成三十年)四月に投資家に売却した。ここでは、かなりの売却益が出た。

### 横浜第一ビル・第二ビルの建替えについて

現在の建物である権田ビル(後に権田第一ビルと呼称)は、当時の日本住宅公団(現UR都市機構)との共同建物として1968年(昭和四十三年)十一月に完成した。1階、2階を当社所有の店舗とし、3階から10階が公団の賃貸住宅である。その後、残された跡地530坪に権田第二ビルとして地下2階、地上8階建ての店舗の建設に着手し1972年(昭和四十七年)四月に完成した。土地は権田金属工業(株)所有であるが、のちに不動産管理会社として100%子会社の権田総業(株)を設立し、両建物は権田総業(株)所有とした。テナントは両ビル共にダイエーである。

しかしながら、完成から41年が経過し、特に第一ビルの3階から10階のURの賃貸住宅は耐震補強がされていないため、URから共同建替えの提案があった。

これは2009年(平成二十一年)六月のことであった。権田第一ビルの1、2階は耐震補強は完了していたが、権田第二ビルは未施工であり、共に老朽化も進んでいたことか



ら、当社でも提案を前向きに検討した。

そして、2009年（平成二十一年）九月二十八日にURと共同建替検討勉強会をスタートさせた。URの当初の窓口は神奈川地域支社・都市再生業務部であった。その後勉強会は毎月開催し立地、用途などの意見交換を行った。2010年（平成二十二年）十月からは権田総業（株）も費用を負担して具体的な検討を進めた。

当社ビルの建て替えに当たっては、テナントのダイエーの同意が必要である。2010年（平成二十二年）一月に、ダイエーにURとの検討状況を説明したが、先方は黒字店舗でもあり長期間の閉店が必要となる建て替えには、当初は消極的であった。その後ダイエー社内でも建て替えの必要性が認識されるようになり、特に2011年（平成二十三年）三月十一日に起きた東日本大震災の後は理解が進んだ。

その後、検討会を重ね2011年（平成二十三年）三月二十八日、第9回検討会で、現行案に近いモデルプランが決まった。それは、建替える建物は1棟性を確保したうえで、権田第一ビルの場所に店舗棟を建て、現在の権田第二ビルのある場所にURの住宅を建てるものである。

以後、具体的につめなければならぬことが多くあり、2012年（平成十四年）八月にはアドバイスを受けるた



休日のパルナード通りのイベント(右側の建物がダイエー)

めに、(株)アール・アイ・エーとコンサルタント業務委託契約を結んだ。その後ダイエーがイオンの傘下に入ったため2013年(平成二十五年)四月以降はイオンモールとの交渉となった。

URは南幸市街地住宅の建替にかかる「基本設計その他業務」の入札を実施し、東畑建築事務所が落札した。その結果は2014年(平成二十六年)十月二十日付の建通新間に掲載された。

イオンモールとは交渉の結果、2015年(平成二十七年)八月に権田総業(株)、権田金属工業(株)と基本合意書を締結した。銀行よりの融資の約束も受けることができた。

しかし、その後同年10月になって突然URより、横浜波なる地震波を考慮すると計画している75mの建物が建たなくなるといった話があった。この横浜波なるモノは構造計算上考慮する必要のないものであったが、この唐突な申し出により建て替への検討は約1年遅れることになった。検討に時間がかかったが、スーパーゼネコンの工法で75mの建物を立てられるものがあったことと、最後はUR理事長の社会的責任を果たすという決断により事業を進めることとなった。

それから急ピッチで作業を進めているが、横浜市の建設の認可のルールは非常に細かいものがあり、当社、UR、



商業棟 完成予想図



UR住宅棟 完成予想図

イオンモール3社とアール・アイ・エーで現在も認可を受ける作業を進めている。予定では2019年（平成三十一年）四月に現在の2つのビルの取り壊しに入り、店舗棟は2022年十一月、住宅棟は2023年十二月の完成予定である。



2018年(平成30年) 創立100周年



2018年(平成30年) 創立100周年記念式典 役員・永年勤続者



時を刻む・激動の  
一世紀



| 1904年         | 1902年   | 1899年  | 1894年         | 1889年   | 1878年                | 1876年              | 1874年                          | 1872年  | 1868年  | 年度                 |
|---------------|---|--|---------------|---------|----------------------|--------------------|--------------------------------|--|--------|--------------------|
| 明治37年         | 明治35年   | 明治32年  | 明治27年         | 明治22年   | 明治11年                | 明治9年               | 明治7年                           | 明治5年   | 明治元年   | 和暦                 |
|               | 4月 3代目権田藤三郎家業を承継する。<br>3月 2代目権田藤三郎死去<br>3月 3代目権田藤三郎家業を承継する。 | 1月 初代権田藤三郎死去<br>1月 2代目権田藤三郎家業を承継して銅鉄商の基盤を築く。 |               |         |                      | 横浜市石川町2丁目8番地に移転する。 | 初代権田藤三郎横浜市石川町2丁目43番地に銅鉄商を開業する。 |  |        | 会社のあゆみ             |
|               |   |  |               | 横浜に市制施行 | 誕生<br>郡区町村編成法の公布で横浜区 |                    |                                | 国鉄横浜駅開業。初代駅は現桜木町駅。2代駅は1915年(大4)に現在の高島町1丁目付近に開業したが関東大震災で倒壊。1928年(昭3)に3代目の現在の駅が開業した。 |        | 地域社会               |
| 日露戦争始まる(～05年) |   |  | 日清戦争始まる(～95年) |         |                      |                    |                                |  | 明治天皇即位 | 国内                 |
|               |   |  |               |         |                      |                    |                                |  |        | 海外                 |
|               |   |  |               |         |                      |                    |                                |  |        | 銅相場<br>17当たり(円)年平均 |

|   |               |                  |                               |  |                   |        |  |                 |               |                             |
|---|---------------|------------------|-------------------------------|--|-------------------|--------|--|-----------------|---------------|-----------------------------|
| 1927年   | 1926年         | 1925年            | 1923年                         | 1922年  | 1921年             | 1920年  | 1918年  | 1914年           | 1912年         | 1908年                       |
| 昭和2年  | 昭和元年          | 大正14年            | 大正12年                         | 大正11年  | 大正10年             | 大正9年   | 大正7年   | 大正3年            | 大正元年          | 明治41年                       |
|   |               | 3月<br>復旧する。      | 9月<br>関東大震災により、本店、工場ともに灰燼に帰す。 | 8月<br>大旋風に襲われ、建物全部倒壊、機械設備に損害を受ける。再興に努め、同年12月に復旧する。 |                   |        | 10月<br>3代目権田藤三郎個人事業として横浜市西区南幸町2丁目51番地に権田伸銅所を創設し、伸銅品の製造販売を開始する。 |                 |               |                             |
| 横浜市が区制施行鶴見、神奈川、中、保土ヶ谷、磯子区が誕生<br>小田急線<br>新宿～小田原間全線開通 |               |                  |                               |  | 市内電車（横浜電鉄）が市営となる。 |        |  |                 |               | 横浜鉄道（現JR横浜線）<br>東神奈川～八王子間開通 |
|   | 大正天皇崩御。昭和天皇践祚 |                  | 関東大震災                         |  |                   | 国際連盟成立 |  | 第1次世界大戦勃発（～18年） | 明治天皇崩御。大正天皇践祚 |                             |
| 金融恐慌  |               |                  |                               |  |                   |        |  |                 |               |                             |
|   |               | 八六四・五円<br>（大阪市場） | 七一八・八円<br>（大阪市場）              | 六三八・七円<br>（大阪市場）                                   |                   |        | 一〇三三・三円<br>（大阪市場）  |                 |               |                             |

| 1945年                                | 1944年  | 1939年       | 1938年              | 1937年  | 1936年  | 1932年        | 1931年                | 1929年                   | 1928年      | 年度                 |
|--------------------------------------|--|-------------|--------------------|--------|--------|--------------|----------------------|-------------------------|------------|--------------------|
| 昭和20年                                | 昭和19年  | 昭和14年       | 昭和13年              | 昭和12年  | 昭和11年  | 昭和7年         | 昭和6年                 | 昭和4年                    | 昭和3年       | 和暦                 |
| 5月<br>横浜大空襲により、工場及び附属建物罹災する。         | 11月<br>法人組織とし株式会社権田伸銅所を設立する。<br>資本金75万円とし権田藤三郎初代社長となる。 |             | 7月<br>海軍省の指定工場となる。 |        |        |              |                      |                         |            | 会社のあゆみ             |
| 横浜大空襲（5月24日）で市街地の42%が被害を受ける。         |  |             |                    |        |        |              | 国鉄相模線<br>茅ヶ崎～橋本間全線開通 | 小田急線<br>相模大野～片瀬江の島間全線開通 | 横浜市が市営バス開業 | 地域社会               |
| 広島、長崎に原爆投下。<br>第二次世界大戦終わる。<br>国際連合発足 |  | 第二次世界大戦始まる。 |                    | 日華事変勃発 | 二・二六事件 | 五・一五事件・犬養毅暗殺 |                      |                         |            | 国内                 |
|                                      |  |             |                    |        |        |              |                      | 世界大恐慌                   |            | 海外                 |
| 七、〇〇〇円<br>（十二月）<br>（需要者）             | 一、八〇〇円<br>（需要者）  |             | 一八八八・六円<br>（大阪市場）  |        |        |              |                      |                         |            | 銅相場<br>17当たり(円)年平均 |

|       |                           |                      |                                   |           |   |   |   |                            |                           |         |
|-------|---------------------------|----------------------|-----------------------------------|-----------|---|---|---|----------------------------|---------------------------|---------|
| 1958年 | 1957年                     | 1956年                | 1955年                             | 1954年     | 1953年   | 1952年   | 1950年   | 1949年                      | 1947年                     | 1946年   |
| 昭和33年 | 昭和32年                     | 昭和31年                | 昭和30年                             | 昭和29年     | 昭和28年   | 昭和27年   | 昭和25年   | 昭和24年                      | 昭和22年                     | 昭和21年   |
|       | 11月<br>相模原市小山の土地1万坪を買収する。 | 7月<br>資本金を1900万円とする。 |                                   |           | 10月<br>1月<br>1月<br>前代表取締役権田モト死去。<br>資本金を950万円とする。<br>銅棒、銅帯を製品化する。 | 12月<br>9月<br>代表取締役社長に権田忠志就任する。<br>資本金を700万円とする。 | 9月<br>9月<br>代表取締役社長権田藤三郎死去。<br>代表取締役権田モト就任する。 | 2月<br>資本金を100万円とする。        | 1月<br>社名を権田金属工業株式会社に変更する。 |         |
|       |                           | 横浜市が政令指定都市になる。       | 横浜市を主会場に第4回国体開催。<br>相模原市が工場誘致条例制定 | 相模原町が市制施行 |   |   |   |                            |                           |         |
| なべ底不況 |                           |                      | 神武景氣到来                            |           |   |   | 特需景氣  |                            | 農地改革実施                    | 日本国憲法公布 |
|       |                           |                      |                                   |           |   |   | 朝鮮動乱起こる（52年）                                  |                            |                           |         |
|       | 二二〇,〇〇〇円                  | 四〇〇,〇〇〇円<br>(建値以下同じ) |                                   |           |   | 三三九,五〇〇円<br>(中心相場)<br>三三〇,〇〇〇円<br>(中心相場)        | 一七〇,九〇〇円<br>(中心相場)                            | 一三二,五〇〇円<br>(一〇月)<br>(生産者) | 二八,〇〇〇円<br>(五月)<br>(需要者)  |         |

| 1973年  | 1972年             | 1969年       | 1968年              | 1966年              | 1964年                            | 1963年   | 1961年   | 1960年                              | 1959年 | 年度                 |
|--|-------------------|-------------|--------------------|--------------------|----------------------------------|---|---|------------------------------------|-------|--------------------|
| 昭和48年  | 昭和47年             | 昭和44年       | 昭和43年              | 昭和41年              | 昭和39年                            | 昭和38年   | 昭和36年   | 昭和35年                              | 昭和34年 | 和暦                 |
| 4月<br>東京都世田谷区桜ヶ丘4丁目25番2号に土地400坪を買収し東京営業所を開設する。 | 4月<br>第二権田ビル建設する。 |             | 11月<br>第一権田ビル建設する。 |                    |                                  | 8月<br>第二期移転工事完了し、本社所在地を神奈川県相模原市宮下1丁目1番16号に変更する。 | 5月<br>横浜伸銅株式会社を設立する。<br>8月<br>資本金を2千万円とする。<br>12月<br>資本金を4千万円とする。 | 1月<br>横浜から相模原に第一期移転した溶解、圧延工場が稼働する。 |       | 会社のあゆみ             |
|  | 米軍相模総合補給敵戦車移送阻止闘争 |             | 横浜市人口が200万人突破      |                    | 国鉄根岸線桜木町～磯子間が開通。東海道新幹線が開通し新横浜駅開業 |   |   |                                    |       | 地域社会               |
| 第1次石油ショック不況                                    |                   |             |                    | 戦後最長のいざなぎ景気到来（70年） | 東京オリンピック開催                       | オリンピック景気  |   |                                    | 岩戸景気  | 国内                 |
|  |                   | 米宇宙船が初の月面着陸 |                    |                    |                                  | 米国ケネディ大統領暗殺される。                                 |   |                                    |       | 海外                 |
| 四二〇,〇〇〇円                                       | 三八五,〇〇〇円          |             | 四〇五,〇〇〇円           |                    |                                  | 二六二,〇〇〇円  | 二七二,〇〇〇円<br>二八二,〇〇〇円<br>二八二,〇〇〇円                                  | 二三八,〇〇〇円                           |       | 銅相場<br>17当たり(円)年平均 |

| 1988年       | 1987年          | 1986年                            | 1985年            | 1983年  | 1982年   | 1980年               | 1978年                | 1976年                | 1975年    | 1974年              |
|-------------|----------------|----------------------------------|------------------|--|---|---------------------|----------------------|----------------------|----------|--------------------|
| 昭和63年       | 昭和62年          | 昭和61年                            | 昭和60年            | 昭和58年  | 昭和57年   | 昭和55年               | 昭和53年                | 昭和51年                | 昭和50年    | 昭和49年              |
|             |                | 12月<br>コンピューター制御による完全自動圧延機を導入する。 |                  | 11月<br>代表取締役社長権田忠志が取締役相談役に転じ、代表取締役社長に権田源太郎が就任する。 | 7月<br>相模金属株式会社を設立する。熱風循環焼鈍炉の円型ガス炉を導入する。<br>8月<br>鍛圧工場を建設し、鍛造品の自社製造が可能となる。 |                     | 4月<br>権田運輸株式会社を設立する。 | 4月<br>権田総業株式会社を設立する。 |          | 5月<br>資本金を6千万円とする。 |
| JR横浜線全線が複線化 | 相模原市人口が50万人を突破 |                                  | 横浜市人口が300万人を超過す。 |  |   |                     |                      |                      |          |                    |
|             |                | バブル経済始まる                         | プラザ合意による円高不況     |  |   | 第2次石油危機後不況<br>(83年) |                      |                      |          |                    |
|             |                |                                  |                  |  |   |                     |                      |                      | ベトナム戦争終結 |                    |
|             |                | 二六〇,〇〇〇円                         |                  | 三七〇,〇〇〇円   | 三八〇,〇〇〇円<br>四一〇,〇〇〇円  |                     | 三二〇,〇〇〇円             | 四四〇,〇〇〇円             |          | 八九〇,〇〇〇円           |

| 1998年  | 1997年  | 1996年        | 1995年                             | 1993年                     | 1992年                          | 1991年   | 1990年             | 1989年  | 年度                  |
|--|--|--------------|-----------------------------------|---------------------------|--------------------------------|---|-------------------|--|---------------------|
| 平成10年  | 平成9年   | 平成8年         | 平成7年                              | 平成5年                      | 平成4年                           | 平成3年  | 平成2年              | 平成元年   | 和暦                  |
| 10月<br>創立80周年式典開催、会社社史編纂。                    | 4月<br>本社工場の隣接地一七〇〇坪を買収し、遊休地一八〇〇坪と併せ、ゴルフ練習場（ボールパーク）を開設する。 |              | 11月<br>前代表取締役社長権田忠志死去、護国寺にて社葬を行う。 | 11月<br>六百三十七冷間鍛造プレスを導入する。 |                                | 2月<br>神奈川県厚木市戸室一丁目二十八番二十七号にGK厚木マンションを建設する。<br>4月<br>伸銅品（タフピッチ銅、プレスパー・タフピッチ銅引抜棒、快削黄銅引抜棒）の日本工業規格（JIS）表示許可工場となる。<br>6月<br>無酸化焼却炉（ローラーハース式）を導入する。 |                   | 6月<br>アルミリングの製造販売を開始する。<br>9月<br>東京営業所を東京都渋谷区東三丁目二十二番八号に移転する。<br>10月<br>創立70周年式典開催 | 会社のあゆみ              |
| 10月<br>神奈川ゆめ国体が開催される                         | JR相模原駅ビル開業   | 小田急相模大野駅ビル開業 |                                   |                           | 第9回全国都市緑化フェア“グリーンウェーブ相模原'92”開催 | JR相模線が電化  | 京王相模原線が開通         |  | 地域社会                |
| 7月<br>Windows98日本語版を発売                       | 2月7日<br>長野冬季オリンピックピック開催<br>7月<br>マイクロソフト社が               | 平成不況始まる      | 阪神・淡路大震災発生                        |                           |                                | バブル崩壊後の不況   |                   | 昭和天皇崩御。<br>平成天皇践祚  | 国内                  |
| 12月<br>ケニア、タンザニアの米国大使館の同時爆破テロ発生<br>米英がイラクを空爆 | 8月   |              |                                   |                           |                                |   | ベルリンの壁が崩壊、東西ドイツ統一 |  | 海外                  |
| 二六一,〇〇〇円                                     | 三四〇,〇〇〇円   |              | 三三〇,〇〇〇円                          | 二二〇,〇〇〇円                  |                                | 三五〇,〇〇〇円<br>三九〇,〇〇〇円<br>三六〇,〇〇〇円  |                   | 四一〇,〇〇〇円<br>四八〇,〇〇〇円   | 銅相場<br>1ヶ月当たり(円)年平均 |

| 2008年                                   | 2007年  | 2006年  | 2005年                                   | 2004年   | 2003年                                      | 2002年   | 2001年                   | 2000年                             | 1999年  |
|---|--|--|---|---|--|---|-------------------------|-----------------------------------|--|
| 平成20年                                   | 平成19年  | 平成18年  | 平成17年                                   | 平成16年   | 平成15年                                      | 平成14年   | 平成13年                   | 平成12年                             | 平成11年  |
| 10月<br>創立90周年行事として社員家族会社見学会と立食パーティーを開催。 | 3月<br>マグネシウム合金薄板量産工場完成                         | 4月<br>コンピュータ基幹システム一新、Windows対応<br>心化                       | 8月<br>インベスト神奈川、相模原産業集積ステップ50条例の認定を受ける   |   | 12月<br>「マグネシウム系金属薄板の製造方法製造装置」特許取得          | 6月<br>神奈川県特定産業集積活性化事業補助金採択。<br>8月、ISO9001:2000年度版に移行・更新 |                         | 3月<br>東京営業所を本社に移転統合し営業体制の強化を図る    | 8月<br>ISO9002認証取得                            |
| 3月<br>市が相模原補給廠の一部返還予定地の新都市構想を公表         | 3月<br>城山町、藤野町が相模原市に合併する                        | 3月<br>津久井町、相模湖町が相模原市に合併する。<br>5月<br>神奈川県が大阪府を抜いて全国2位となる。   | 3月<br>相模原市、津久井町、相模湖町が合併協定の調印            | 11月<br>市政施行50周年                                     | 4月<br>青山学院大学相模原キャンパスが淵野辺に開校<br>相模原市が中核市に移行 | 4月<br>JR相模線上溝駅前広場完成                                     | 4月<br>宮ヶ瀬ダムが完成、運用開始     | 4月<br>相模原市保健所を開設                  | 4月<br>（株）さがみはら産業創造セ立<br>ンターが市内西橋本に設          |
| 3月<br>リーマンショックにより東京株式市場暴落となる。           | 10月<br>原油高、食品の値上げラッシュが起きる。<br>5月<br>日本郵政グループ発足 | 1月<br>ライブドア事件が起きる。<br>3月<br>ライブドア系企業株売り殺到で東京証券取引所設立以来の全面停止 | 3月<br>愛知万博が開催<br>6月<br>環境省が奨励するクルビズスタート | 5月<br>小泉首相、北朝鮮を訪問し、一部の拉致被害者家族が帰国<br>10月<br>新潟中越地震発生 | 12月<br>地上デジタル放送開始                          | 9月<br>小泉首相が日本の首相として初めて北朝鮮を訪問                            | 10月<br>ユニバーサルスタジオジャパン開園 | 12月<br>懸念は大きな問題にならず<br>BSデジタル放送開始 | 2月<br>日本銀行ゼロ金利政策実施                           |
| 9月<br>リーマン・ブラザーズ経営破たんにより世界金融危機の発端となる    | 8月<br>サブプライム問題表面化、世界的株安となる                     | 7月<br>北朝鮮が7発のミサイルを日本海に発射                                   | 7月<br>英国ロンドンで同時爆破テロ事件発生                 | 12月<br>スマトラ沖地震、インド洋津波発生                             | 3月<br>米軍がイラクに侵攻                            | 1月<br>ユーロ圏12カ国で単一通貨が流通開始                                | 9月<br>アメリカ同時多発テロ事件が起きる  | 6月<br>朝鮮半島分断後、初の南北首脳会議を開催         | 12月<br>EUの単一通貨ユーロが11月に導入される。マカオがポルトガルから中国に返還 |
| 七八二、〇〇〇円                                | 八八八、五〇〇円                                       | 八三四、一〇〇円   | 四五九、八〇〇円                                | 三五六、八〇〇円  | 二四五、八〇〇円                                   | 二三六、三〇〇円  | 二三三、四〇〇円                | 二三三、六〇〇円                          | 二一七、一〇〇円                                     |



| 2016年                                    | 2015年   | 2014年  | 2013年   | 2012年   | 2011年   | 2010年                                       | 2009年  | 年度   |
|--|---|--|---|---|---|---|--|--|
| 平成28年                                    | 平成27年   | 平成26年  | 平成25年   | 平成24年   | 平成23年   | 平成22年                                       | 平成21年  | 和暦   |
| 6月<br>平成27年度補正ものづくり補助金採択（ローリングフォーミング機導入） | 3月<br>「戦略的基盤技術高度化支援事業」（サポイン）3年間の事業終了し成果報告会実施。 | 3月<br>ホームページ・リニューアル。<br>9月<br>平成25年度ものづくり補助金採択（新型NC旋盤導入） | 8月<br>「戦略的基盤技術高度化支援事業」（サポイン）の採択を関東経済産業局より受ける。第二工場事務所棟に本社事務所移転（総務、営業部門）新食堂、更衣室建替え完成。創立95周年 | 5月<br>国際マグネシウム協会第69回（サンフランシスコ）でマグネシウム600mm幅合金板の高速ダブルロール製造技術の開発の講演を行う。         | 1月<br>隣地1500坪（土地、建物）買収し第二工場とする。<br>5月<br>子会社、横浜伸銅（東神奈川）が創立50周年を迎える。 | 2月<br>テクニカルショウヨコハマ2010にマグネシウム合金AZ61を出展      | 10月<br>平成21年度ものづくり中小企業製品開発支援補助金採択（サーボプレス機導入）                 | 会社<br>の<br>あ<br>ゆ<br>み                               |
| 3月<br>さがみはら産業振興ビジョン2025を策定               | 3月<br>圏央道相模原ICが開設                             | 9月<br>相模原補給廠の一部17ヘクタールの返還が決定<br>11月<br>市政施行60周年          | 3月<br>ポーノ相模大野誕生。<br>10月<br>日本女子オープンゴルフが相模原ゴルフクラブで開催される。                                   | 6月<br>はやぶさが帰還した6月13日はさぶさの日と制定   | 3月<br>東日本大震災が発生   | 4月1日<br>相模原市が全国で19番目の政令市制都市となる。             | 7月<br>相模原市3区制の名称、緑区、中央区、南区とすることが決まる。                         | 地域<br>社<br>会   |
| 4月<br>熊本地震発生、熊本県も被害を受ける。                 | 3月<br>北陸新幹線長野～金沢間開通<br>10月<br>マイナバーの個人通知開始。   | 4月<br>消費税8%スタート。<br>9月<br>御嶽山噴火や広島豪雨など自然災害相次ぐ。           | 9月<br>2020年東京オリンピック開催決定   | 7月<br>ロンドンオリンピックで日本史上最多のメダル38個を獲得。<br>12月<br>第46回衆院選で自民党が294議席を確保し第二次安倍政権が発足。 | 3月<br>東日本大震災、原発事故により甚大被害発生  | 6月<br>小惑星探査機「はやぶさ」帰還。<br>7月<br>参院でねじれ国会となる。 | 5月<br>裁判員制度がスタート。<br>8月<br>民主党が選挙で大勝利<br>民主、社民、国民の3党連立内閣が発足。 | 国<br>内   |
| 6月<br>英国、国民投票でEU離脱表明                     | 7月<br>米国とキューバ54年ぶりに国交回復                       | 8月<br>エボラ出血熱感染拡大   | 11月<br>台風フィリピン直撃、死者、行方不明者多数   | 9月<br>シリア内戦が泥沼化   | 10月<br>タイで大洪水発生、日系企業大打撃を受ける   | 8月<br>チリ大地震、チリ銅山落盤事故起きる                     | 6月<br>世界68カ国で新型インフルエンザ大流行（パンデミック）41年ぶり宣言                     | 海<br>外   |
| 五七四、四〇〇円                                 | 七一五、五〇〇円                                      | 七七三、一〇〇円   | 七八八、七〇〇円  | 六七七、八〇〇円  | 七五二、二〇〇円  | 七〇四、二〇〇円                                    | 五二五、四〇〇円   | 銅<br>相<br>場<br><br>1し<br>当<br>たり<br>円<br>年<br>平<br>均 |

| 2018年  | 2017年   |
|--|---|
| 平成30年  | 平成29年   |
| 10月<br>ホームページリニューアル<br>創立100周年式典ホテルニューグランドで<br>開催。会社社史100年の歩み編纂。 |   |
| 10月<br>神奈川の11歳「オセロ」<br>世界一に。                                     | 7月<br>強毒、特定外来生物「ヒ<br>アリ」が県内で確認。全<br>国に先駆けて「ヒアリセ<br>ンター」開設。            |
| 7月<br>広島、岡山などを中心<br>に記録的な大雨、平成<br>最悪の豪雨被害に。                      | 11月<br>藤井聡太四段が史上最<br>年少で公式戦50勝を達<br>成。羽生善治竜王の持<br>つ(16歳6ヶ月)を更<br>新した。 |
| 北朝鮮問題、イラン核合意<br>問題、米中貿易摩擦の激化                                     | 1月<br>トランプ氏、第45代<br>米大統領に就任、「米<br>国第一」を旗印に。                           |
| 七六九、八〇〇円   | 七三三、五〇〇円  |



# 100年の思い出

# 100周年を迎えて

権田金属工業株式会社専務取締役 権田 善夫



この度、権田金属工業株式会社が創立100周年を迎える事が出来ましたが、偏に、お客様、従業員の皆様、そしてそのご家族の力添えがあったからこそと感謝しております。

思い返しますと、先代社長の権田忠志は生年が大正7年、即ち弊社創立の年でありました。

その為、先代が還暦とか古希を迎えた際には、本人が会社の創業年と重ねて色々と思う処があったように思います。印象に残っておりますのは、70周年の時に「古希は元気で迎える事が出来た。希望として、更に元気に米寿を迎えたいが、流石にその後はお前達が努力して貰いたい。」との言葉です。寿命とは言え、先代は「喜寿」をお祝いしたのが最後でしたが、実際に100周年を迎える事が出来、非常な感慨を感じております。

小生は、他社での経験を経て昭和58年の2月に弊社に入社致しました。

最初は技術部で昭和60年（1985年）5月迄は設備

保守を経験致しました。大学では工学関係を勉強しておりましたので特に違和感はありませんでした。

次に、営業に移りまして、昭和61年10月まで実際に担当先を持たせて頂きました。

この営業での経験は全くの初体験でありまして、何事につけ大層勉強になりました。

その時に、担当させて頂きました企業の皆様には、工場に戻りましてからも色々とお世話になり、感謝に耐えませんでした。

その後、工場に戻りましてからは、主として品質管理関係を担当しながら設備企画や管理面での企画を行いました。印象に残っている直接担当しました企画としては、JIS表示取得、ISO認証取得、銅球用の化学研磨自動計量梱包装置導入、生産管理システムの製造関係導入、ブスバーの真空吸着移動設備導入、そして最後になるかも知れませんがマグネシウム合金の上方鑄造設備があります。どれも現在でも継続稼働や維持をしておりますので、考え方としては間違っていないなかつたと、自負しております。

## 閑話休題

企業はやはり継続してこそ、との思いを強くしております。

後に続く人達が、先ず十千十二支という大還暦120年

を目指して努力を怠らない事を願っています。時代の流れを感じ、初代が黄銅、二代目が銅と不動産を追加、現社長がマグネシウムとゴルフ練習場を追加、等々企業として不  
断の努力を行って来た事に間違いはないと確信しております。  
今年、現社長の長女も弊社に入社致しました。

勿論本人等も努力致します事を確信しておりますが、皆様のご指導ご鞭撻を頂き、「良品共栄」の下に今後の発展を願って止みません。

## 100周年を迎えて

権田金属工業株式会社取締役総務部長 山本 周平



当社に入社して19年余が経過しましたが、私にとって数々の貴重な経験と知識を得させて頂きました。前職では総務・人事・給与システムの経験はありましたが、ISOについては全く知識がありませんでした。思い  
おこせば入社した年が当社のISOのスタートの年であり  
審査機関による審査会議の書記を命じられ内容がさっぱり  
理解できずに議事録を取ることとなって読まれた方は苦勞  
されたと思います。

当時はまだ職場にパソコンが1人ではなく、サーバー室に1台あり共有使用でした。その後、Windows 98シリーズを導入して逐次導入が進みました。生産管理システムは権田専務が苦勞されて現在の方法に至っています。このシステムは勤怠システムや生産に係る作業工数等の取り込みも可能な優れたシステムです。

Windowsのバージョンアップにより現在レベルアップへの更新作業に着手中です。

当社の総務部は幅が広く主資材の購買は全く経験があり

ませんでした。また、前任の監査役より引継ぎをしたテナントであるダイエー横浜西口店との賃料改定や改修修理等未経験な分野が多く日々勉強でした。

テナントである横浜西口ダイエーの権田第一ビルについては竣工から35年が経過し3階から10階にUR都市機構の賃貸住宅があり区分所有の建物となっているため、UR側からの申し出によって2000年2月に第一ビルの耐震診断が行われました。この結果を受けて翌年に耐震改修のための設計を行い、2002年3月～同年11月にかけて区分所有比率（UR64%、当社36%）で費用負担を行い耐震改修工事を実施しました。URからは3階から10階の賃貸住宅部分も耐震工事を実施することであった。

しかしながら、URとして社内検討を重ねた結果、賃貸住宅部分の耐震補強工事を行うにはM字型のブレースを居室の入り口にはめ込まなくてはならず、このことよって使用できる居室が減少することと、1階、2階のダイエー店舗内にも壁の設置が必要となることからURとしては耐震補強工事は難しいとの結論に達したとのことであった。当然、当社としても1階、2階のダイエー店舗内に壁を設置することは店舗として成り立たないとのことと、共同建替え計画の検討を2009年から開始することとなった。権田第一ビル、第二ビルとUR都市機構との共同建替え検

討に関しては9年の歳月を要し、やっと本年中には計画が確定するに至るまでになりました。この建替えは当社にとつて最も大きなプロジェクトとなります。

## 次の百年に繋ぐ良き伝統

権田金属工業株式会社監査役 権田 哲也



本年創立百周年を迎えたことは誠に喜ばしく、特に近年の厳しい経済環境の中、百年という節目に辿り着いたことは、社長をはじめ従業員の皆様ならびに社員おひとりに表す次第であります。

私は平成十五年末から非常勤の監査役という立場で、会計監査の観点から会社経営の状況を見させて頂いております。就任当時は振り返りますと、丁度、新規事業への業務展開として「マグネシウム系金属薄板の製造方法および製造装置」の特許を取得した時期にあたり、平成十九年にはマグネシウム合金薄板の量産工場が完成致しました。マグネシウム事業に関しましては事業採算的にはまだまだこれからという状況が続いておりますが、お客様に良品を提供するための品質向上に継続的に取り組んでおり、今後大きく花開く時期が来るものと期待しております。また平成二十三年には、本社工場の隣地一千五百坪の土地・建物を買収し、平成二十五年に同地に総務・営業部門の事務所移

転を行っており、事業環境の整備にも着実に取り組んでいきます。現在抱えている大きな課題としては横浜市西区の旧工場跡地に保有する貸ビルの建て替え・再開業事業があります。建て替えの完了はまだ少し先になりますが、完成した暁には更に盤石な企業基盤が構築されるものと期待しております。

これら以外にも、規模の大小はありますが、毎年様々な出来事が会社には発生しており、監査の立場から経営陣の皆様、経理のご担当者の皆様にお話を伺う事象も多々ございます。その際に感じますことが二点あり、ひとつはそれぞれの出来事や問題につき何事も疎かにせず会社として真摯且つ誠実に向き合う姿勢が明確に感じられる点であり、もうひとつはそれぞれの事象が後から見ても内容が見える經理処理になっているという点です。この二点については、一般的には至極当然と言われるものかもしれませんが、このような企業姿勢が着実に根付いていることは、とても大切なことであり、永く引き継いで行って欲しいと感じております。

近年、日本企業による検査・試験データの改ざんや不適切会計といった不祥事が数多く目に触れる状況になっていきます。「企業は生き物である」と良く言われ、企業経営にも様々な姿勢がありますが、会社規模の如何を問わず、優れ



た企業や長続きする企業には共通した何かがあると思いません。直面する数々の問題に真摯に誠実に向き合う姿勢、不都合な問題でも包み隠さず正々堂々と受け止める姿勢、そしてそれらを引き継いでゆく経営陣の強固な意志といったこれまで培われてきた当社の良き伝統が、次の百年に繋ぐ大切な要素であると感じています。

## 子孫に伝えるもの 【80周年記念誌より】

権田金属工業株式会社初代社長 権田 藤三郎



吾 権田家先祖は新潟県の人、初代を藤三郎と為す。性潔白鋭敏幼名啓助と呼ぶ。新潟県三島郡與板村呉服商星野家に生る。父を喜左衛門、母をミイと稱し其の四男

なり。母ミイ女は同郡脇野町に本陣を営む権田惣兵衛の姉にして星野家に嫁す。啓助は故あつて惣兵衛の養子となる。

成長に及び志を立て江戸に來り、専ら商業を見習ふ。横浜開港を見るや轉して横浜港相生町二丁目三河屋と呼ぶ、銅鉄商高橋助次郎方に身をよせ、業を励む事数年、主人の許しを得て明治七年、同港石川町二丁目四十三番地に銅鉄商を独立開業す。名を藤三郎と改め屋号を三河屋、商標をㄥト、家紋を丸に九枚笹を用ゆ。本来権田家の定紋は梅鉢なるも、藤三郎幼年の頃権田家と同町に住む岡本市作と申す人あり、此の人啓助を非常の愛し、学文習字等を懇切に教へられたり。其恩義を終生忘れぬ為岡本家の定紋を載用せしなりと。明治八年神奈川県足柄下郡根府川村名石根川石同石山持主、皆本家の娘茂登を妻に迎ふ。父を源兵衛、母をふくと稱し其の三女なり。茂登は其當時神奈川県神奈

川町石材問屋小泉某家へ見習奉公中同家の媒酌に依り結婚す。同女は其の気性剛健にして男子をも凌ぐ概あり。夫を激勵大に勤め内助の効見るべきものあり幸ひに同二丁目八番地に賣家あり之を夫に進め求めて移轉す。時は明治九年なり。家運漸く順調に向ふ。夫婦間に子無し茂登の甥源太郎を迎へ養子とす。父を皆本熊吉（源兵衛の婿）母をカル女（源兵衛実子長女）と稱し其次男なり。妻に同市太田町紙商石井與一妹タケを迎ふ。初代藤三郎五十六才を一期となし明治三十二年十二月七日此の世を去る。源太郎其の名を藤三郎と改め二代目を襲ぐ。資性聡明にして商才に長け業績とみに上り、権田家基礎全く茲に定む。惜むらく三十一才を一期とし明治三十五年三月十三日此の世を去る。妻タケ女が合議上生家へ復籍、二代目に子無し。母茂登女は其弟を養子に直す。其名を善四郎と云ひ皆本熊吉四男なり。明治四十二年三月縣下平塚在豊田村製絲業富田次郎二女久子と結婚す。久子は不幸にして病魔の犯す處となり明治四十三年十二月五日死去行年二十三才。大正元年十月横濱市西戸部町會社員松丸富次郎姉モトを妻に迎ふ。父を久藏、母をヒデと稱し其の長女なり。大正五年五月廿九日母茂登女、六十三才を以て世を去る。同六年一月廿四日其名善四郎改め藤三郎とし三代目を相續す。三代目大に考ふる處あり工業を企つ、年正に三十有余才。

大正七年横濱神奈川區青木町（其後地区地番変更西區南幸町二丁目五十一番地と改正）に伸銅工場を建設し同年十月操業銅黄銅棒及び線類の製造販賣を開始す。時恰も財界不振の悪時代に遭遇し収支補わず経営殆ど困難に窮入り心身共に疲勞す。遂に大正九年一月二十日病床に伏す。其二月工場閉鎖の止む無きに至れり翌十年三月健康舊に復し再び起つの心を決す身を工場の陣頭に立ち諸員督勵製品改良經費節減等に研究努力を重ね漸く軌道に達せんとするに際し天未だ三代目に幸を與ゑず。不幸にも大正十一年八月廿四日大旋風に襲われ、建物全部倒潰機械設備等に多大の損害を受けたれども更に屈せず再起大に努め同年十二月復旧す。其後製品改良に努む其功空しからず需要方面の歓迎する處となり業績大に上り経営順調に復す。

大正十二年九月一日又々大震災の厄に遇ふ。本店工場共に盡く灰燼に歸す。資金は既に盡し負債數十萬圓に上り再起絶望に達す。熟考するに徒らに悲観に落ち入るは愚なりとなし債務者並みに需用者に實情を告げ協力を求め幸に諾する處となり以後再建に邁進す。三代目子無し大正十三年一月権田家本家の血統に當る當時横濱市相生町二丁目に銅鉄商を營む権田清一の次男善雄（母年子）養子に迎ふ。不幸にして同年八月七日死去す。更に鬱心に鞭打て努力奮闘同十四年三月復旧を見る。以後本店を排し工場経営一本に

して進む精勵大に努め債務の返済に専念す。此の間常盤町二丁目に住む親友佐藤昇氏の特別なる鞭撻助力に依り凡て順調に進む。昭和三年権田清一長女清子（母年子）養女に迎ふ。是又如何なる因縁にや邁々病を得て昭和十四年五月十六日不幸にも此世を去る。一難去れば一難来ると云う状態にて一家憂鬱の内に日を送る事久し。斯くては果でじと惰心に鞭打ちて業務に精勵大に勉む。幸に報ひありて昭和五年遂に債務を果す。爾來特殊合金の研究を進め軍需規格品を製出するに至り各軍関係工場の圧延金属材料の軍需に應ず而して事業の伸展に伴ひ從來に倍加する能力の擴張を遂げ昭和十二年支那事変勃発するや海軍購買名簿に登録され指定工場として直接納入の名譽を擔ふ。昭和十九年十一月九日個人經營を法人組織に変更し株式會社権田伸銅所（資本金七拾五萬円）とし社長に就任す。大東亜戦争起るや艦本航本の命を奉し最後には軍需省管理工場として御奉公す。昭和二十年五月廿九日空襲に依り八十%の損害を受け其の復興中終戦となる。會社の名稱を権田金属工業株式會社と改め平和産業に轉換復興第一期豫算費として金五百萬圓を計上復興に着手。先づ敷地參千余坪を買収し内容設備も其半に達す昭和二十二年九月操業を開始す。其後益々再建に努力昭和二十四年二月資本金貳拾五萬圓を増資そ金壹百萬圓と成す。

兼てより養女に内定し居る父権田清一、母年子二女信子に對し知人工學博士河合匡先生媒酌に依り長野県長野市大字三輪一三六〇番地徳武實弟忠志（父を数次郎、母をまさ其五男）と婚約成り、昭和二十四年一月十日婚禮の式を舉げ夫婦養子となす。

昭和二十五年二月六日男子を出産す。其名を二代目の幼名に因み源太郎と命名す。

初孫に声を聞ゐて

藤善

初孫の産声に餅こがしけり

健やかに育ちゆく初孫の姿を見て

藤善

麗らかな春の恵みに藤の蔓

芽吹きてやかて花薫るらむ

但し藤善とは三代目雅號

昭和二十五年八月

命日 昭和二十五年九月十一日

## 大切な“独自の社風” 【70周年記念誌より】

権田金属工業株式会社二代目社長 権田 忠志



私は一つ社風をつくることが重要であることを強調したい。

社風というものは一朝一夕に出来上がるものではない。今、私が思うに、前社長が会社をはじめるとき、“独立・自立”の精神を揚げて、自分が自分でやるのだという覚悟を持って研究に力を入れてやってきたのではないかと思う。

それぞれに目標を決めて研究を自分でやるのだという事になるとそこに立派なものが出る。当権田金属の研究費が多いか少ないかはわかりませんが、研究に金を掛ける、いわば長い間かかって旺盛な研究心が社風になってきたと言えらると思う。

社員各位は、開発は自分の力で、という気持が自然に生まれるようにならなければならぬ。“企業は人なり”“人材は得難い”事業は先ず人造りから…：事業を進めるうちに一体会社というものはどんなものであるかを考え、私は資本と人とお得意の三つであると思う。このうち資本は株主の資本を集めるにしても、借入れするにしても、会社の

内容がよくありさえすればよいと思う。大事になのはお得意、結局最も大切なのは人の問題である。この世の中に人程多いものはないが、又少ないのも人である。

又、私が思うに事業程寿命の少ないものはないということ、商店にしても何にしても、人間の寿命より事業は放っておくと私は一番短いと考えている。そこで、この事業を永遠ならしめるためには更新が最も必要である。

更新をやって行かなければ決して永遠な企業はない、更新なき企業は衰退する。今日の夢は明日へつながり、これに打ち勝つところに限らない発展がある。それから仕事は自ら求めるということ。難事！一番むずかしい仕事から先に一つ解決する。

難事にあたっては率先して解決する。途中で放棄してはならない。これは研究でも何でもそういうことを成文化して進める。

今日の様に市場が全世界となっている時、世界人として信用を獲得するには良品を廉価に作る事にたくましく競争力がなくてはならない。最後に企業は人なり。人材は得難い。常に自らを反省し、健康を保ち、知にあふれ、責任を全うする人である事を期され度い。

## 六十年余の交遊 〔80周年記念誌より〕

下田産業株式会社代表取締役 下田 省吾



創業者権田藤三郎氏次代権田忠志氏現三代目源太郎さんと私は縁あって此の方々交友を持ち、公私に亘って大変御世話になった一人として思出を述べて見たいと

思います。其の期間は六十年余の年月であり、初代二代は亡き人となり特に二代とは長い年月の交遊の密度は深いものがありました。戦前戦中は福田勝西商店に在籍し戦後は株式会社福田地銅店専務として在職、此の間重要な取引先として更に忠志さんが社長に就任の折、非常勤役員として関与し源太郎社長に変わった時退任し今日に至っております。

戦前戦中の思出は海軍艦本部の指定軍需工場として軍艦の主要部品の素材メーカーとして繁栄しており、其の生産の外に黄銅棒の6mmから100mm迄を製造販売して居り其の商品の取引先の一人として出入りしており、同業問屋には林銅鉄店（大森）村田伸銅店（日暮里）酒井瓦商店（神田）福田勝西商店等で品質も精度も良質で当時として要望が多くありました。然しながら軍需優先時代で納期は極

めて不確実であり、特に評判の良い細丸棒は我々問屋同志が取合ひでありました。当時の工事入口から右手に海軍監督官室と製品検査室が在り長い髭の老体監督官が駐在して居り、納期の催促に伺っても社長に会う事は出来ませんでした。社長室兼事務所には畳敷の室があり社長夫人が長火鉢にデーンと居られ上天井を戴いて納期の確約も無く退散したので。此の温い思出は忘れる事が出来ない。廣枝（営業、総務）瀬下（倉庫、運輸）工場の岩本さん等在り何れも亡き人で懐しい人々です。当時藤三郎社長は南幸町の町会長や学校の会長等であり、横浜市会議員の選挙の手伝いに伺った事も懐しい思い出であります。

初代は公私に亘って活動され権田金属の基礎を作られたのでしよう。昭和二十年敗戦と空襲により最大の得意先、海軍が消滅、工場も焼け残りましたが新しい販路の開拓から一般市販品の製造に転換する其の変革期に次代忠志氏入社、日も浅いの病に、そして急死されました。忠志社長時代日本経済の発展時代と併せ日夜開発と建設に現存の人達が其の社長の強力なる指導により権田金属の改革を行ったのであります。

相模原工場へ移転、横浜工場跡地開発、スーパーダイエービル建設、銅材熔解、圧延設備、太棒の鍛造からアルミ加工、銅帯圧延設備、公害廃液処理等生産品目の多用化、合理化

に大きな改革を実施しました。其の努力が今日の権田金属の安定をささえているのでしょう。

長男源太郎さん、次男善夫さんに譲ると同時に現場工場内に入り、其の引きわの見事な事仲々出来ない事で尊敬して居りました。更に突如として倒れ帰らぬ人となり、其の人生行路は誠に見事な最後であり長い交友の私には残念であり、またウラヤマシイと考えております。此の間最大の補佐役として実弟徳武雅英氏の存在を忘れる事は出来ません。私は人生の大半を過ごした福田地銅店退職十二年、権田金属は十年、横浜伸銅は五年前業界の前線から去って静かに眺める時、我々非鉄金属伸銅業界は新たな変革期に遭遇しているのではないか、従来百年続く企業は1%と稱されて居り三代四代続く事は極めてマレであり、初代、二代の変革期に対する乗切り方を参考にした発展を願っております。

## 反射炉製錬について【80周年記念誌より】

元取締役相談役 徳武 雅英



権田金属で反射炉製錬が行われたのは、昭和二十八年に反射炉が導入されてからで、同年八月二十五日に反射炉の「火入れ」が行われ、それ以降、本格的に銅製錬に取り組んだのです。それ以前は「つぼ吹き」による方法で、僅かの量を生産していたわけですが、品質も安定せず、導電率九〇パーセントになるような品質も出来なかったのだ、前社長に「黄銅」だけでなく「銅」をやりたいと言う計画があつて、顧問の工学博士「河合匡さん」の意見で反射炉が導入されたわけです。

当社では社長以下、反射炉操業を経験した人は一人もおりませんので、築炉した中外炉工業に依頼して、反射炉操業の権威者として、昭和電線の製造第一課長の志茂氏を紹介して戴いたのでした。志茂氏の指導のもとで色々勉強させてもらつて、反射炉作業に取り組んだのですが、なかなかいいものが出来ず、二十八年八月から十二月まで失敗に失敗を重ね続けて、十四回目に成功したのです。そのネバりは、社長以下担当者の努力の賜物でして、その精神は現

在も生きつづけているものと思われれます。

反射炉作業を行う際にきついと感じた点

反射炉作業は一、材料投入（溶解）、二、風かけ（酸化作用）、三、松入れ（還元作用）、四、鑄造の以上四工程の作業があります。その中で「一の材料投入」と「三の松入れ」がきつい作業だったと私は思っております。材料は（一）電気銅、（二）プレスした銅線、（三）リタン材、と三種類が適当に配合されています。

「材料投入」は、プレスされた銅線を奥から順々に積みあげるもので、これがなかなか「力」と「技術」を要求されるむづかしい作業で、力のあるベテランの人が主に行っていました。

「松入れ」は、生木の丸太を熔銅の中（千度〜千二百度）に投入するのですが、入れると同時に湯（熱い熔銅）が跳ね返って来る、怖い危険な作業でした。これを二時間から三時間位経過した処でサンプリングをするのですが、これも厳しい作業でした。

忘れられない事

昭和三十九年に組合が残業拒否の戦術を執った為、反射炉作業は定時間内では製品にならないので、四時以降は管理職が反射炉を続けなければならず、私が御大になってやったものでした。管理職の中で反射炉のノウハウを知りつく

しているのは、前社長と私と権田地銅店社長の三人だけだったので、この時は私一人といってもよかったです。毎日はい出来ないで、隔日で一カ月頑張った。この時、組合に対する態度が強硬だった事が今日に通じていると思います。

結論

今考えると大変な仕事でしたが、こうしたことが基礎となって今日の権田金属が存続しておるのではないかと思います。当時一屯の反射炉はどこも出来ませんでした、権田金属が成功させたその技術は、天下一品と思っております。その技術は、今日まで受け継がれ、技術の権田金属と言われる所以ではないでしょうか。ちなみに、反射炉作業は昭和四十七年九月で十九年の年月を経て、操業を停止いたしました。

## オイルショックの前後 〔80周年記念誌より〕

権田総業株式会社顧問 横山 康吉



昭和四十八年十月、産油国は申し合わせて原油の価格を一気に四倍に引き上げた。此のオイルショックにより急激なインフレーションが生じ、諸物価は高騰し、

日本国中は物資不足になるとの仮想におびえた。(トイレットパーパーはが不足するとのデマで、人々が買い占めに走り、一時全国の店頭から品物が無くなった)

当社にも注文が殺到し、年末には八百屯の受注残をかかえる事になった。

昭和四十五年より製造設備の合理化計画が権田ビルからの資金により実行された。これにより昭和四十五年から四十七年にかけて、黄銅の熔解能力五〇〇kg電気炉三基の内二基が現在に二〇〇kg電気炉に更新され、熔解能力が三倍になった。

また、幸にも昭和四十八年五月から東京に営業所を開設、倉庫に一カ月分の製品在庫を持つべく増産し、営業開始時には三〇〇屯の在庫を有していた。

更に昭和四十八年十一月、伸銅業界では最初のブスバー

の四面を同時に走間で皮ムキをする四面面削機が稼働を始め、銅ブスバーの生産能力はそれに以前の倍以上になった。これ等の施策により、受注残の一部は納期遅れと価格の下落により取り消しとなったが、五月頃までは工事のフル操業で受注残を消化した。

しかし、その後は受注が激減し、前年実績の半分も確保出来なくなった。この不況は翌年の五十年末まで続き、伸銅業界では伸銅所の廃業と倒産が大小二十社から三十社にのぼった。

当社も定時間内の作業量の受注が十分に確保出来ず苦しんだが、営業所の在庫を利用しての売りつなぎと補充で、操業を続ける事が出来た。当社が週休二日制となったのはこの時期であった。

その当時の生産量の推移は次の通りである。

|           |      |
|-----------|------|
| 昭和四十五年一〇月 | 二五〇屯 |
| 昭和四十八年一〇月 | 三六〇屯 |
| 昭和四十九年一月  | 五〇〇屯 |
| 昭和四十九年一〇月 | 一六五屯 |
| 昭和五十年一〇月  | 二四〇屯 |



## 独立独歩の誇り 【80周年記念誌より】

監査役 小川 重春



「人間五十年流転のうちにくらぶれば」と謡曲の一節にあります。織田信長が座右の言とした故事によっても有名であります。

現代は平均寿命も伸び八十年となりましたが、人間の一生は束の間と申せましょう。しかし企業にとって八十年は決して短い年月でなく、幾多の困難に遭遇しそれを乗り越え、いつの時代にも健全経営を旨とし、何処の系列にも属さず、独立独歩の経営であったことは、誇りとするところではないでしょうか。

### 一、権田ビルのテナント探し

入社以来の思いでは数々ありますが、先ず思い出されるのは横浜にあった工場の跡地に建てる賃貸ビルのテナント探しであります。当時、工場跡地周辺は商業地としては程遠く、平屋建の住宅が散在しておりました。この様な土所に賃貸ビルを造り、大きな店舗にテナントを入れるのは大変なことでした。

三越をはじめ大手デパート、大手スーパー等を前社長と休日も返上して、東奔西走しテナント探しに没頭しました

がなかなか見つからず、その焦燥感は極限に達しました。日本住宅公団と提携してビルを建てることを契約していたので、何としてもテナントを早く決める必要があったからです。

そんな折、川崎にスーパーサンコーがあるのを知り急拠訪問して副社長と面談、出店について意向を尋ねたところ前向きに検討するというご返事をいただきました。そこで数日後再び訪問したところ出店するとの快諾を得ることができ、胸をなでおろしました。その後サンコーは、ダイエーに吸収されました。ダイエーから売上増大のためもう一棟ビルの建築を要請され、昭和四十七年四月第二権田ビルが竣工いたしました。

### 二、固定資産税評価の誤りによる税の還付

昭和六十一年六月、固定資産税、都市計画税の土地の評価に疑問を持ち、再三横浜市西区役所を訪問して評価方法の誤りを指摘したが、担当者と課長は正当なる評価であることを主張し誤りを認めませんでした。

そこで、横浜市に固定資産審査委員会があることを知ると同時に、富山県砺波市に当社と同様に評価方法が誤りであるとして砺波市の固定資産審査委員会に審査申し立てた中越興業株式会社という企業があることを新聞紙上で知り、急拠砺波の中越興業に出向き審査委員会に申し立てる方法、

行政訴訟についての説明を受けました。早速当社の主張を裏付けるために連日、膨大な資料作りに徹したことは昨日のこの様に思われます。

昭和六十一年九月、横浜市固定資産審査委員会に申立てると二回の審査会があり、審査委員に評価方法の誤りを強く主張し、昭和六十二年四月当社の主張が認められて昭和五十七年から六十一年までの過納金四千九百万円の還付がありました。

### 三、よこはまパルナード地区環境整備事業

権田ビルの前面道路に面する、よこはまパルナード商店街は年々増加する来街者に対応する環境整備ができていないため、数年前から整備協議会をつくり検討していたが、関係者の意志の統一がはかれず、全く進展していませんでした。

このことを前社長が知り、環境整備に協力的な者を整備協議会の理事とし、前社長が会長となり平成元年十二月、よこはまパルナード地区整備協議会が再発足しました。そこで先ず整備工事をどこの会社に決めるかということになりました。横浜駅西口周辺は以前から大林組の地盤で今迄の協議会にも深く関わっており、当然大林組であろうと誰しも思っていたところ、会長は竹中土木を推薦しました。中には強硬に反対する者もいましたが、時間をかけた説得

で決々了解、大林組と多少のトラブルがありました。竹中土木に決定しました。

次は賦課金(工事負担金)を決めることでした。賦課金は、協議会メンバーが所有するビルの間口の大きさで決めるべきとする意見と、ビルの延床面積が正しいとする意見があった。結局、間口の大きさと延床面積を勘案した方法で決着しましたが、決まるまでかなりの時間を費やしました。

整備協議会のメンバーはパルナード商店街にビルを所有しているオーナーであり、メンバー相互に利害関係がないことから理事会での発言は遠慮がなく言いたい放題でした。理事会は、週一回か二回開催されました、いつも私が司会を担当いたしました。忍耐と寛容を強いられる会議でした。

整備工事は平成二年二月着工され、紆余曲折の末平成二年十一月に完工し、街は一変し明るいパルナード商店街となりました。

## 八十周年に思う【80周年記念誌より】

取締役総務部長 寺岡 勲



当社が過去の幾多の困難を乗り越えて、本年創立八十周年を迎えたことは誠に同慶のいたりであります。

当社は前身の権田銅鉄商から数えると百二十四年の永年の歴史を有し、この間諸先輩方の英知と努力により、優れた技術と高品質の製品を生み出してきました。

そして、良品共栄の理念のもと多数のお客様の厚い信頼を戴いて、激しい時勢の変化の内で発展を遂げてまいりました。八十周年を迎え、これ迄の歴史に思いをいたす時、改めてこの伝統ある企業に勤めさせて頂いていることをこの上ない誇りに感ずるものであります。

入社から十年を顧りみますと、これとってお役に立てないまま、あつという間に過ぎ去った年月でありましたが、私にとって数々の得がたい貴重な経験をさせて頂きました。

忘れ得ぬ思い出としては、入社間もない時の事があります。経理部勤務となり関連会社を担当しておりましたが、松田取締役経理部長が急逝され、急拠当社の経理を担当す

ることになりました。

当社の経理については皆目無知でありましたし、また当時コンピュータシステムへの切り換えを始めていた時でもあったため、私と女性二人のメンバーで大役を果たすことができらうかと、不安と焦りの日々を過ごしておりました。そんな時、亡きオーナーより「苦しい時の経験が更に自分を向上させる。今貴重な機会と思つて全力を尽くせ」と何回となく叱咤激励を戴き、大海に小舟を漕ぐ思いを続けながらも何とかこれを乗り切ることができました。今もこの時のオーナーのお言葉を思い出しては反省頻りであります。私にとって誠に心に銘じ骨に鏤む思い出であります。

昨今の厳しい環境のもと、当社が更なる発展を遂げていくためには、全社員が一丸となって業務に邁進すると共に、諸先輩に劣らぬ、弛まぬ努力と、オーナーのお言葉通り常に全力を尽くす気魄が大切であると痛感する次第であります。

# 権田金属工業の今と明日

## 今後の展望

権田金属工業株式会社代表取締役社長 権田源太郎



現在進めている横浜ビルの建て替えは権田グループ全体にとって大  
事業です。そこで建替えをグループ会社一丸となって行うために、権  
田金属工業（株）は子会社権田総業（株）を2018年（平成三十年）  
九月三十日に合併しました。横浜のこの創業の地でより地域貢献を図  
るためにも、この建て替え事業を成功させるべく全力を尽くします。

2018年（平成三十年）十月一日時点でのグループ会社は以下の5社です。

権田金属工業株式会社      グループ中核会社、伸銅品製造販売、不動産賃貸

権田運輸株式会社      運送並びにゴルフ練習場の経営

横浜伸銅株式会社      伸銅品問屋業

相模金属株式会社      銅、黄銅スクラップの仕入販売

幸エステート株式会社      不動産管理

各社がそれぞれの事業にベストを尽くしつつ、グループとしての相乗効果を図っていきます。

2018年（平成三十年）十月十日、当社は創業100周年を迎えることができました。

十月十一日には、古くからのお客様を中心にご臨席を賜り、横浜ニューグランドホテルで記  
念式典を行いました。ご出席者代表の方々から過分のご祝辞を賜り、身の引き締まる思いで  
す。また途中では、銅鉄商から数えて144年、黄銅棒メーカーとなってから100年のあゆ

みをビデオにまとめたものをご供覧いただきました。

和やかに会を締めくくることができ、さらに頑張っていく決意を新たに致しました。

当社が100年続けてこられたのは、初代と二代目の不屈の闘志と社員の頑張り、変化すべき時にうまく変化することができたこと、そしてなんといってもお客様の支持があればこそです。ただし、過去の成功は将来を保証してはくれません。

当社の主力製品である銅、黄銅製品は、国内では今後大きな成長は期待できない成熟商品となっています。今後事業を継続するために、輸出も含めた販路の開拓と、マグネシウム製品をはじめとした新しい製品やサービスの提供を目指していきます。

これからも変化を恐れず、社是である「良品共栄」を胸に努力を続けていく所存です。



2018年(平成30年)10月11日  
100周年記念式典

# 「良品共栄」の理念とサービス(S)、スピード(S)、テクノロジー(T)の品質方針の実現を目指して

権田金属工業株式会社は1918年（大正七年）の創業以来伸銅業界に貢献すべく努力を重ねてまいりました。当社は伸銅品の中でも、電気・熱の伝導性・耐食性が高いことから電気・機械部品などに使用されることの多い銅棒・銅ブスバー・黄銅棒などを中心に生産しています。100年の間で培ってきた技術力は、戦前は海軍の指定工場として、1991年（平成三年）には日本工業規格表示（JIS）工場に認定、1999年（平成十一年）にはISO9002の認定を取得されていることで認知いただいております。

これまでわが国の非鉄金属業界は幾度も苦境に直面してきました。国土資源の少なさから海外調達に依存せざるをえず、国際市況や為替相場に影響を受け易いためですが、それら乗り越えつつ、製造業の中で最も合理化・多角化・リサイクル化を推進させた業界へと成長しています。

当社もその時代その時代に何が必要とされているのか市場のニーズを的確につかみ、当社独自の製品をご提供して

きました。電気・電子機器の普及から電力消費に耐えうる製品が必要とされるに際して、重電機械・配電盤に用いられる大型鍛造製品を製造。近年では、素材だけでなく銅・黄銅・アルミを使った加工品の製造に着手しています。一般には素材メーカーと加工メーカーは分離していることが多いですが、当社で一貫して行うことによってコストを削減し、顧客のニーズにより柔軟に対応できる体制を整えることで他社との差別化を図っています。そして電気業界、半導体業界、機械業界と取引先の拡大を目指し、その販路は国内だけでなく中国をはじめアジア地域にも広まっています。

当社は「良品共栄」をモットーにお客様と共に歩んできました。その理念の実現を図るためにも、サービスの「S」、スピードの「S」、テクノロジーの「T」の「SST」の品質方針の下さらなる飛躍を目指していきたいと思っています。

品質方針「SST」の行動指針は以下ようになります。

①サービス (Service)

お客様に満足していただくこと。

後工程がやりやすいように仕事を進めること。

②スピード (Speed)

すべてをスピーディーに行うこと。

③テクノロジー (Technology)

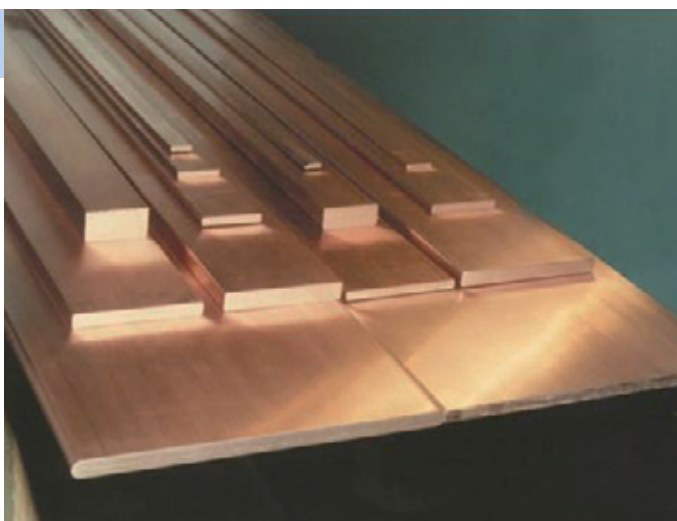
明日を築く技術、製品、サービスを開発すること。

100年を超えて、次の110年、120年とさらなる歴史を刻み続けられる企業を目指して、社員一同、精進と挑戦を行ってまいります。



## 銅ブスバー

当社の銅ブスバー（銅帯）は、熱間圧延材を冷間圧延、または冷間引抜きによって仕上げております。材質はタフピッチ銅、無酸素銅のほか、銀入りタフピッチ銅、銀入り無酸素銅も製造可能です。



## 銅棒

当社の銅棒は、熱間圧延後、冷間引抜きにより仕上げるものと、熱間鍛造後、旋盤加工により、仕上げるものがあります。製造範囲が広く、寸法精度にすぐれています。材質はタフピッチ銅、無酸素銅、脱酸銅のほか、銅ブスバーと同様、銀入銅棒も製造可能です。



## 黄銅棒

当社の黄銅棒は、熱間圧延後に冷間引抜きにより仕上げるものと、熱間鍛造後、旋盤加工仕上げによるものがあります。寸法精度に特にすぐれ、太物には絶対の自信を持っています。材質は、快削黄銅・鍛造用黄銅・ネーバル黄銅・高力黄銅が製造可能です。



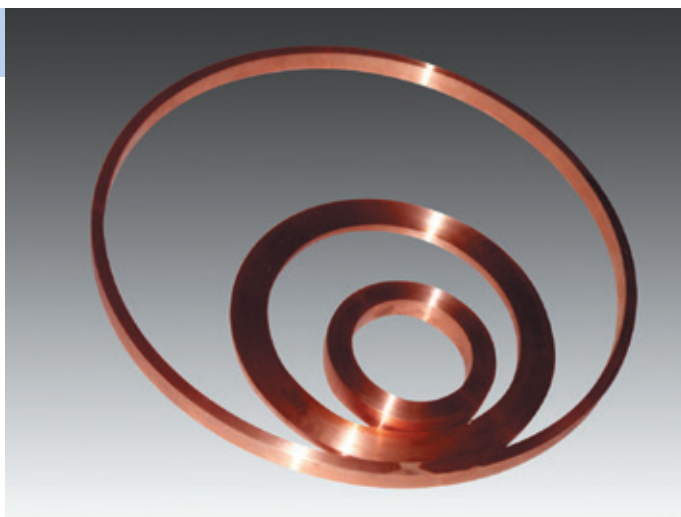
## メッキ用銅アノード

銅メッキ用の素材として各種のアノードを提供しております。銅ボールは冷間鍛造により、板およびオーバルは圧延により製造することで、結晶組織の均一な安定した品質になっています。



## 銅リング・アルミリング

各種の銅リング及びアルミリングを提供しております。当社のリングは熱間鍛造及びリングローリングミル圧延により製造することで結晶組織の安定した素材になっています。



## 鍛造品・加工品

各種の鍛造品・加工品を製造しています。1,000t 油圧プレスにより、大きいものから小さいものまでご要望に応じております。また、ローリングミルにより各種のリングを製造しています。



電気・半導体製造装置・機械業界向けに加工した銅・黄銅・アルミの型打鍛造品

---

権田金属工業創業 100周年記念誌

あゆみ

発行 2018年12月

発行所 権田金属工業株式会社  
神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

編集 東湘印版株式会社

---



権田金属工業株式会社